



京都先端科学大学 大学院

GUIDE BOOK 2026

京都先端科学大学

大学院 6 研究科

研究を深め、人材を育てる

- 経済学研究科 [修士課程]
- 経営学研究科 [修士課程]
- 人間文化研究科 [修士課程]
- バイオ環境研究科 [博士課程前期・後期]
- 工学研究科 [博士課程前期・後期]
- 健康科学研究科^(仮称) [修士課程]*

※ 2026 年 4 月開設予定（設置認可申請中）

内容は予定であり、今後変更になる場合があります。



さらなる探究に向けて

京都先端科学大学大学院で新しい世界へ

京都先端科学大学大学院は、従来の経済学研究科、経営学研究科、人間文化研究科、バイオ環境研究科、工学研究科に加えて、2026年度より新たに「健康科学研究科^{(仮称)*}」を設置し、6研究科体制となる予定です。新たに設置する健康科学研究科は、医療・保健・福祉・健康スポーツといった分野において、実践と研究を往還しながら、地域社会や国際社会の健康課題に貢献できる高度専門職業人の育成を目的としています。現代社会における「健康」の重要性が高まる中、本研究科はその中核を担う教育・研究拠点として、大きな期待を集めています。

本学大学院では、いずれの研究科においても、新たな学術の開拓や、イノベーションを生み出す人材の育成をめざしています。修了生には現代社会が直面する近未来の困難な課題や多様な社会ニーズに対して、次のような資質を備え、主体的に社会に貢献していくことを期待しています。

- 1) 経済学研究科では、「幅広い分析能力と問題解決能力」を兼ね備えた職能人材
- 2) 経営学研究科では、激変する「国際的な経営環境の中でレジリエントに対応」できる経営人材
- 3) 人間文化研究科では、「文化・社会・人間の心を複眼的に追求」した専門知識を学修し、現代社会の様々な場面で活躍できる人材
- 4) バイオ環境研究科では、人間を含む全ての生命体が構成するバイオ環境の維持・発展のための研究、研究から社会実装までを視野に入れた「地球環境創成をリード」する人材
- 5) 工学研究科では、「知識を“融合”し“創造”」することで、次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できるプロアクティブ・グローバル人材
- 6) 健康科学研究科^{(仮称)*}では、医療・保健・福祉・健康スポーツの分野で、科学的根拠に基づいた実践と研究を往還し、健康社会の実現を支える高度専門職業人

※2026年4月開設予定（設置認可申請中）内容は予定であり、今後変更になる場合があります。

どの研究科においても求められるのは、人間への深い理解と、社会システムを実装するための知恵・知識と、それらを使うことのできる「チカラ」です。

京都先端科学大学大学院は、世界が必要とする学術と人材を輩出する場として先端的な研究を推進し、未来への価値を創り出していきます。

そして、大学院学生の皆さん一人ひとりが描く夢、未来を実現できるよう、教員、職員は一丸となって支援いたします。



学長

前田 正史

工学博士、東京大学 工学部卒 工学系研究科 博士課程修了。

金属生産工学、資源リサイクル。

2019年4月京都先端科学大学 学長。

3つのポリシー

アドミッション・ポリシー

各研究分野の高度な学識と
先端的な知識や技能の修得
を通じて社会に貢献しようと
する意欲の高い人を求める。

カリキュラム・ポリシー

各研究分野の卓越した学識
と応用力を修得できるように
カリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー

各研究分野の学術研究者や
高度専門的職業人として活
躍するのに必要な識見を修
得した者に学位を授与する。

教育上の目的

本学大学院の目的

本大学院は、京都先端科学大学の建学の精神を踏まえて、教育基本法及び学校教育法に基づき、専門分野における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、社会の進展に寄与することを目的とする。

本学大学院研究科の目的

本大学院経済学研究科は、現代経済社会の特性を踏まえつつ、国民生活の環境変化に伴う諸問題を分析し、広い視野に立って深い学識を修得し、高度な専門性の求められる職業を担うことのできる人材の育成を目的とする。

本大学院経営学研究科は、国際化・情報化・コンプライアンスの欠如といった社会環境の著しい変化の中にあって経営組織体の内外部に生ずる関連諸現象に関し、経営学的側面の理論的かつ応用実践的な専門能力を有する有為の人材育成並びに組織規模の大小、新旧を問わず、起業家精神を発揮して変革の担い手となるとともに、デジタルトランスフォーメーションや新素材開発の進捗中、新しい知見を社会実装してイノベーションを起こす人材を養成することを目的とする。

本大学院人間文化研究科は、人間の心理、社会の態様、文化の機能を多角的に解明する学問体系の構築を図り、歴史的な視点を踏まえて、現代社会が抱える諸問題の解決に寄与できる人材を育成することを目的とする。

本大学院バイオ環境研究科は、多様な生き物と共生できる持続可能な地域環境（バイオ環境）を作り上げることが目標とし、そのために、バイオ環境をデザイン（設計）する領域の発展と、これに対応したバイオテクノロジーと環境学を連携させた広い視野を持つ人材を養成することを目的とする。

本大学院工学研究科は、機械分野と電気分野に跨る学際的な工学分野の専門的知識・学術・教養を兼ね備え、グローバル社会への関心と、次世代の電気機械システムに必須の専門領域の高度な知識を修得し、さらに深化させることによって次世代の産業の創出と新たな価値の創出に貢献できる技術者・研究者を育成する。

沿革

- 1951 年 3 月 学校法人京都学園創立
- 1969 年 4 月 京都学園大学開設
- 1995 年 4 月 大学院経済学研究科
修士課程開設
大学院経営学研究科
修士課程開設
- 2002 年 4 月 大学院人間文化研究科
修士課程開設
- 2010 年 4 月 大学院バイオ環境研究科
博士課程（前期・後期）開設
- 2019 年 4 月 校名変更
京都先端科学大学 大学院
- 2020 年 4 月 大学院工学研究科
機械電気システム工学専攻
博士課程（前期・後期）開設
- 2022 年 4 月 大学院経営学研究科
経営管理専攻（ビジネススクール）
修士課程開設

経済学研究科

Graduate school of Economics

京都太秦キャンパス

「データサイエンスと行動経済学コース」 経済学専攻 修士課程

Date Science and Behavioral Economics Course

「税理士養成コース」 経済学専攻 修士課程

Certified Public Tax Accountant Training Course

経済学研究科は2つの専門コースから構成されます。「データサイエンスと行動経済学コース」では、経済学とデータ解析の専門技術を応用し、直面する諸課題に対する提案能力を醸成します。一方、「税理士養成コース」では、税理士資格取得を目指す人に修士論文作成のサポートとともに、相続や経営に関する支援業務の専門知識を有する実務に役立つ人材を育成します。

めざすこと

- ① ICT や AI を駆使してデータ解析を行うことで市場や社会の構造を理解し説明できる人材の育成
- ② 行動経済学を柱とする発想と技術に基づきビジネスシーンで有効な提案ができる人材の育成
- ③ 個人や企業に対しプロフェッショナルな視点と知識により貢献できる税理士の育成



高度専門職人材の育成と社会人への手厚い修学支援

経済学研究科は、「データサイエンスと行動経済学コース」と「税理士養成コース」という2つの専門コースから構成されます。前者では、経済学の専門的知識やデータ解析の専門技術を獲得するだけでなく、それを人間行動の分析や、市場や社会の構造の理解に応用し、実際のビジネスシーンで直面する諸課題の解決に向けて提案ができる人材の育成を目指します。また、後者では税理士の資格取得を目指す人に向けて、修士論文作成のための手厚いサポートと共に、実務として個人や企業に対する相続や経営に関する支援業務で役立つ専門知識の獲得を目指します。いずれのコースも、限られた時間を有効に活用したい社会人の修学を支援するため、対面授業を基本としつつ、土曜日集中、平日夜間、オンラインなど柔軟かつ多様な形式で開講される授業を用意しています。

経済学研究科長 徳賀 芳弘

研究内容や教育内容

データサイエンスと行動経済学コース

データ収集・処理に始まり、それらデータの統計解析を行うための python 等のプログラミングの基礎を学び、最終的には自ら問を立て仮説を構築しデータを用いて検証するスキルの修得を目指す。また、行動経済学を基礎とする経済実験（実験室実験・フィールド実験）やコンピュータ・シミュレーションを通して、ランダム化比較試験（RCT: Randomized Controlled Trial）や深層学習（Deep Learning）などを活用する技法の修得を目指す。



税理士養成コース

各種の租税法や租税会計実務を学び、税法および会計学の領域での修士論文の完成と、税理士としての実務で役立つ知識と技能の修得を目指す。また、会計業務や経営指導業務だけでなく、民間企業の会計参与や地方公共団体の外部監査人など、幅広い領域での職務遂行に求められる専門的知識、および高い職業倫理意識を持つ税務・会計領域における専門的職業人の育成を目指す。

経済学研究科 Graduate school of Economics

データサイエンスと行動経済学コース

Date Science and Behavioral Economics Course

CONCEPT

コースのコンセプト

データ分析の技法や行動経済学の知識を獲得し、それらを人間行動あるいは市場や社会の構造の理解に応用し、実際のビジネスにおける諸課題の解決に向けた提案ができる専門職業人材を育成します。

このコースのコア科目（重要科目）は「データサイエンス」と「行動経済学」の2つの領域から構成されおり、人間行動や社会構造を理解するためのデータ分析の技法や、行動経済学に基づく実験やコンピュータ・シミュレーションの技法について包括的に学びます。「データサイエンス」領域の科目では、理論面だけではなく実データの利用を念頭において python 等の統計解析ツールを用いた分析法や、ビッグデータを基に高次の予測・判断を行う機械学習を用いた分析手法などを学びます。また、「行動経済学」領域では、行動経済学が導き出す諸理論とその現実社会での応用について、実験室実験やフィールド実験の手法と合わせて、包括的に学習します。コンピュータ・シミュレーションでは、行動経済学の知見を取り入れたマルチエージェント・シミュレーションについて基礎から学ぶだけでなく、AI（人工知能）において最も重要な技術である「深層学習」（Deep Learning）も併せて学習することで、様々なビジネスに応用可能な最先端の分析手法を習得することができます。その他、情報系の科目を通じて、実際のビジネス展開における AI、メタバース、IoT などの最新の活用事例とその阻害要因などについても学ぶことができます。

めざすキャリア

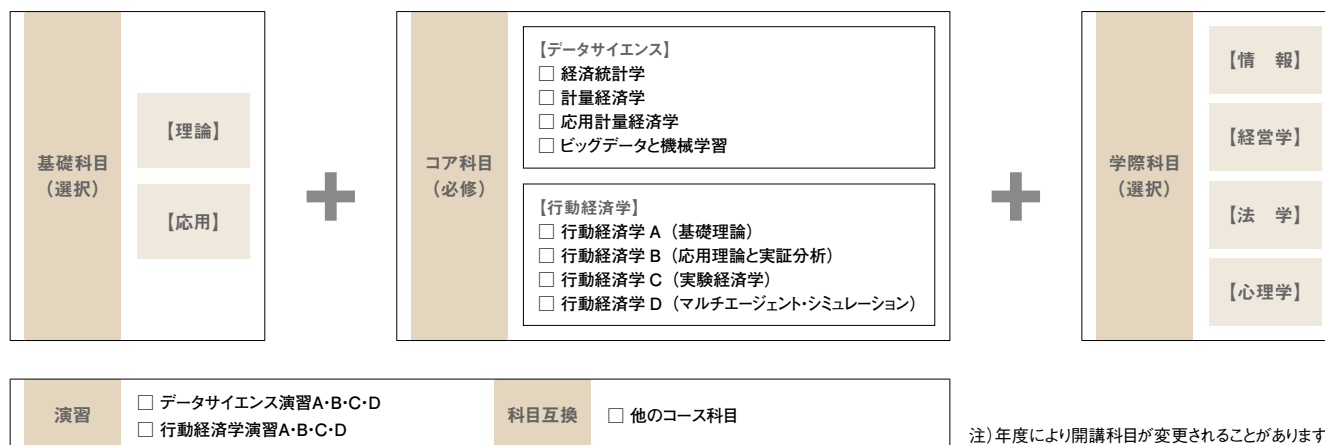
- ☐ データアナリスト ☐ データサイエンティスト ☐ マーケティングリサーチャー
☐ ビジネス・コンサルタント など

CURRICULUM

カリキュラム

「データサイエンスと行動経済学コース」では、2年間を通して履修登録する「演習」（論文指導）と合わせて、「コア科目」に挙げられているデータサイエンス領域の4科目と行動経済学領域の4科目が必修となります。それ以外は、経済学の理論と応用を学ぶ「基礎科目」、あるいは情報、経営学、法学、心理学の領域から成る「学際科目」からの自由選択となります。また、併設される「税理士養成コース」の開講科目の一部についても受講することが可能です。詳しい科目名称と内容については、経済学研究科のHPをご参照ください。

<データサイエンスと行動経済学コースのカリキュラム構成>



注) 年度により開講科目が変更されることがあります。

税理士養成コース

Certified Public Tax Accountant Training Course

CONCEPT

コースのコンセプト

税務の実務能力はもちろん、経済、法務、会計の各領域の専門知識を備え、社会の幅広い領域で活躍できる専門職業人材を育成します。

税理士は、税務の専門家として個人や企業が税務署に提出する申告書の作成を代行するだけでなく、決算書類の作成や会計帳簿の記帳代行などの会計業務、そして経営指導の業務も担っています。また、税理士は、民間企業の会計参与や地方公共団体の外部監査人となることも認められているほか、企業に勤務しながら税務を担当する企業内税理士の需要も高まっており、社会の幅広い領域で活躍しています。したがって、こうした税理士に期待される職務遂行のためには、これまで以上に幅広い専門的な知識が不可欠であることはもちろん、公正で透明な税務行政に貢献できるような高い職業倫理意識を持つことが要請されています。本学大学院の税理士養成コースは、このような時代的要請に応え、税務・会計領域における専門的職業人の育成を目指します。

めざすキャリア

中小企業における経営支援の担い手

☐ 税理士

民間企業・行政機関における法務・会計の担い手

☐ 企業内税理士

☐ 国税専門官

※ 学位取得による税理士試験の科目免除制度について

税理士養成コースは税理士資格の取得を目指している人々をサポートするプログラムです。税法プログラムまたは会計プログラムにおいて所定の修了要件を満たした上で、修士論文を国税庁・国税審議会に提出することにより、税法2科目または会計1科目の試験免除を受けることができます。

プログラム	修士論文の内容	取得できる学位	試験免除の内容
税法プログラム	税法に関する論文	修士(経済学)	税法2科目免除
会計プログラム	会計学に関する論文	修士(経済学)	会計1科目免除

「税理士養成コース」では、以下のようなフローで両方のプログラムを3年間で修了することも可能です。(既修得単位の認定及び在学期間の短縮)

税法プログラム (2年間)			会計プログラム (1年間)		
入学	32単位修得 修士論文(税法論文)の合格	修了	入学	18単位修得 修士論文(会計学論文)の合格	修了

「税法プログラム」在籍中の修得単位から14単位を「会計プログラム」において修得したと認定するとともに「会計プログラム」に1年間で在籍したものとみなします。最短で1年間の在籍で「会計プログラム」の修了が可能になります。ただし、本学の「税法プログラム」の修了者にのみ「会計プログラム」の在学期間短縮制度へのエントリーが認められています。詳細については大学院経済学研究科にお問い合わせください。

CURRICULUM

カリキュラム

演習では2年間を通じて完成度の高い修士論文作成のために丁寧な指導を受けることができます。また、税法プログラム、会計プログラム共に税理士養成に特化した科目群を設定し、クライアントの疑問や要請に理論的・実践的に応えられるような実務に役立つ知識やスキルを身に付けることが可能となっています。

税理士養成コース＜税法＞プログラム

コア科目 (必修)	☐ 租税論A ☐ 租税論B ☐ 租税制度論 ☐ 租税法総論 ☐ 租税手続法 ☐ 租税実体法A(所得税) ☐ 租税実体法B(法人税) ☐ 租税論特殊研究	選択科目	☐ 会計学研究A ☐ 会計学研究B ☐ 財務諸表論研究A ☐ 財務諸表論研究B ☐ 管理会計論研究A ☐ 管理会計論研究B ☐ 税務会計論 ☐ 監査論 ☐ 民法総則 ☐ 経済法 ☐ 行政作用法 ☐ 法情報処理
演習	☐ 租税論演習A・B・C・D	科目互換	☐ 他のコース科目

税理士養成コース＜会計＞プログラム

コア科目 (必修)	☐ 会計学研究A ☐ 会計学研究B ☐ 財務諸表論研究A ☐ 財務諸表論研究B ☐ 管理会計論研究A ☐ 管理会計論研究B ☐ 税務会計論 ☐ 会計学特殊研究	選択科目	☐ 租税論A ☐ 租税論B ☐ 租税制度論 ☐ 租税法総論 ☐ 租税手続法 ☐ 租税実体法A(所得税) ☐ 租税実体法B(法人税) ☐ 監査論 ☐ 民法総則 ☐ 経済法 ☐ 行政作用法 ☐ 法情報処理
演習	☐ 会計学演習A・B・C・D	科目互換	☐ 他のコース科目

ADMISSION POLICY

求める人物像

本研究科では、経済学部卒業生及びこれらと同等の学力を有する者で、かつ以下の条件を満たすものを受け入れる。

1. 高度な専門性を身につけて、社会の様々な分野で活躍する職業人を目指す者
2. 経済学に立脚しつつ、経営学、法学、心理学等の学問領域横断的な諸課題の解決に有用な専門知識と分析力の修得を目指す者

FACULTY

教員紹介

データサイエンスと行動経済学コース

有賀 裕二 特任教授 博士(経済学) 専門分野 ミクロ経済学、進化経済学、社会経済物理学 担当科目 ミクロ経済学 経済理論研究講義 著書論文 Evolutionary Economics, Springer Nature, 2024 (単著) Digital Designs for Money, Markets, and Social Dilemmas, Springer Nature, 2022 (編著) 伝統的なミクロ経済学の理論とは別に、最新の経済学研究の応用による、行動経済学とデータサイエンスの統合の可能性についても解説する。	安達 房子 教授 修士(経営学) 専門分野 情報システム論 担当科目 情報システム論 著書論文 『ICTを活用した組織変革 ―マネジメントの視点からのテレワークの分析』(単著, 晃洋書房)、『経営学概論』(編著, 大月書店) ほか多数 AIやメタバース、IoTなどの最新のICTを企業がどのように活用しているのか事例研究を行い、ICTを自企業で活用するために、何が必要かを分析・検証する。DX化にむけての課題を明らかにする。	大島 博行 特任教授 修士(都市ビジネス) 専門分野 経営戦略論 担当科目 経営戦略論 著書論文 『「日本発」MBA戦略&マネジメント【実践編】』(共著:中央経済社)、『CKO ―ナレッジを活かす経営』(共著:生産性出版) ほか多数 ケーススタディを通じて経営戦略に関する各種フレームワークを試し、その有用性と限界について検証する。実際の企業の現場でフレームワークを使いこなし、経営戦略を策定できる力を育成する。
久下 沼 仁 筒 教授 経済学修士 専門分野 公共政策論、公共経済学、公共選択論 担当科目 公共政策論 政策研究講義 著書論文 『ポスト福祉国家の経済政策』(共著, ミネルヴァ書房) 『キャリアと労働の経済学』(共著, 日本評論社) ほか多数 政府による市場経済への政策介入の経済効果と、政策決定から実施に至る政治過程に焦点を当てた分析を行う。また、現代日本が直面する具体的課題への政策対応の在り方についても検討する。	澤田 吉孝 教授 博士(商学) 専門分野 金融論 担当科目 金融論 著書論文 The Effectiveness of Unconventional Monetary Policy in USA, (Proc. of the 45th ISCIE Int. SSS) 「フィッシャー仮説の統計的検証」(同志社大学経済学論叢) ほか多数 無知からくる「誤った政策」は、善意であっても災禍をもたらす。このことを念頭に最新の金融理論を用いて日本の金融政策を批判的に分析する。併せて金融を読み解く力の育成を目指す。	新長 章典 教授 経済学修士 専門分野 DX概論 担当科目 DX概論 著書論文 「大学での電子教科書利用の課題」、『スマートフォン・モバイルPCを利用したICT活用について』 ほか多数 DX(デジタルトランスフォーメーション)の事例をもとに、成功の要因および阻害要因を考察する。
平田 謙輔 教授 修士(経済学) 専門分野 社会政策論 担当科目 社会政策論 政策研究講義 著書論文 『社会保障の光と陰』(共著, 高学出版) ほか多数 社会政策の必要性和意義、およびその今日的課題について、歴史的・理論的に考察し理解を深めるとともに、福祉国家が抱えてきた諸問題とその転換の方向について検討する。	石原 卓典 准教授 博士(経済学) 専門分野 フィールド実験による行動経済学研究 担当科目 応用計量経済学 データサイエンス演習 プログラミング基礎 著書論文 "The Effect of Information Provision on Stated and Revealed Preferences: A Field Experiment on the Choice of Power Tariffs Before and After Japanese Retail Electricity Liberalization." Environmental and Resource Economics, 1-27. (共著) "Choosing Who Chooses: Selection-Driven Targeting in Energy Rebate Programs. (No. w30469). "National Bureau of Economic Research. (共著) 統計学・計量経済学を用いた実証分析の方法と手法について学習する。最終的には先行研究で行われている統計手法を理解し、自分自身でデータ分析が行えるようになることを目的とする。	岡嶋 裕子 教授 博士(国際公共政策) 専門分野 人事の経済学、労働経済学、教育経済学、人的資源管理 担当科目 経済統計学 データサイエンス演習 著書論文 "Do 'Boss Effects' Exist in Japanese Companies? Evidence from Subordinate-Supervisor Matched Panel Data", AEJ 35(1), 2021 (共著) 「人事制度・施策の変更、管理監督者の職場行動、従業員の職務満足―人事マイクロデータとアンケート調査によるパネル分析―」(共著:日本労務学会誌 15(1), 2014 (共著)) 統計学の基本的な理論をベースに、実データ利用を念頭に置いたExcel等の統計解析ツールを用いた分析法を習得する。分析するにあたってのデータ収集方法やデータ処理の基本についても学ぶ。
カオ ティ キャン グェット CAO Thi Khanh Nguyet 准教授 博士(経済学) 専門分野 開発金融、国際経済、応用計量経済学 担当科目 計量経済学 データサイエンス演習 著書論文 "Determinants of international students' decision to remain in Japan to work after graduation" Journal of Asian Economics 2022 単著 『これからの東アジア:保護主義の台頭とメガFTAs』(共著, 文眞堂) ほか多数 企業や家計などの個別経済主体のデータを集め、計量経済学の方法を用いて、分析する方法を学習する。分析を通じて、経済学の理論を統計的に検証する。	難波 敏彦 准教授 博士(経済学) 専門分野 ミクロ経済学、ゲーム理論、行動経済学、機械学習 担当科目 行動経済学 A・B・C・D 行動経済演習 著書論文 The Intrinsic Value of Decision Rights and Reciprocity (Journal of Behavioral Economics and Finance 共著) "A Model of Pricing Data and Their Constituent Variables Traded in Two-sided Markets with Resale: A Subject Experiment" 2022 IEEE International Conference on Big Data proceedings ミクロ経済学における理論分析手法(消費者の理論、生産者の理論、ゲーム理論)を基礎として、行動経済学・コンピュータシミュレーション・経済実験を取り入れることにより、現実社会で使える経済学について講義する。	鈴木 貴之 准教授 博士(技術経営) 専門分野 イノベーション研究、マーケティング研究 担当科目 マーケティング論 著書論文 顧客満足度を与える影響要因の同定 (日本経営システム学会 2018年5月) ほか多数 マーケティングの基本用語及び基礎理論を習得することを目的とする。伝統的なマーケティングと新しいマーケティングの考え方の両方について学び、実務に応用できるようにする。

神田 正樹 教授		博士(商学)
専門分野	マーケティング、消費者行動論、マーケティングリサーチ	
担当科目	経営学特殊研究	
著書論文	『マーケティングにおけるエンゲージメントー市場形成に向けた価値の共創ー』同文館出版、2023 年、単著。 『サービス・ドミナント・ロジックの核心』(第9章「アクター・エンゲージメント」担当)同文館出版、2021 年、共著ほか多数。	
現代の経営環境の変化に即して、DX と組織改革 (担当：新長)、データサイエンスに基づくマーケティング分析 (担当：神田)、経営学や流通の理論を応用した実践的な分析方法 (担当：田口) をそれぞれ学修する。		

小笠原 信実 准教授		博士(経済学)
専門分野	財政学、社会保障論、アジア経済論	
担当科目	財政学 政策研究講義	
著書論文	「韓国における公的医療保険と財政－医療における公共性と社会保障財源」(単著、ミネルヴァ書房)、「韓国における混合診療と公的医療保険給付の課題」(単著、社会政策第11巻第2号)、「米韓 FTA の本質と韓国の医療」(単著、医療福祉政策研究第3巻) ほか多数	
財政学の基礎的な考え方を学び、これをふまえて現実の日本の財政に関連する諸課題および現代世界の経済の実態に対して財政の果たすべき役割について考察する。		

税理士養成コース

中村 政温 特任教授		経営学修士
専門分野	租税法、会計実務	
担当科目	租税論演習 税務会計実務 新会計基準と法人税 租税論 A・B 租税制度論	
著書	『ベンチャー経営成功のバイブル』（共著、清文社）	
論文	『資本等取引をめぐる会計と税務（改訂版）』（共著、清文社）	
法人税の課税所得の計算の解説と最新の会計基準の解説。具体的には、実務に関する税務と会計の違いを新会計基準を中心に解説するとともに、法人税申告書の記載の方法の解説。		

藤川 義雄 教授		修士(経営学)
専門分野	無形資産の識別に関する会計問題	
担当科目	財務諸表論研究 会計学特殊研究 会計学演習	
著書論文	『現代会計の思潮』(共著、同文館出版) 『国際会計の基本問題』(共著、同文館出版) ほか多数	
会計が果たすべき役割と企業経営に与える影響を念頭におきながら、現行の会計制度に残された課題と「あるべき会計」の姿を受講生と一緒に考察していきたい。		

村井 淳一 特任教授		修士(法学) 税理士
専門 分野	企業間利益移転、資本等取引に係る法人税	
担当 科目	租税法演習 租税法総論 租税手続法	
著書 論文	『税務訴訟と要件事実論』(共著：清文社)、『中小企業の会計に関する指針ガイドブック』(共著：清文社) ほか多数	
税法の基礎理論を前提としつつ、税目ごとの知識にとどまらず横断的な理解に主眼を置いて、現実の経済活動に税法を的確に当てはめるための理論的な思考力を身につけられるよう、議論し研究する。		

村田 淑子 教授		修士(アメリカ研究)
専門 分野	証券業界の自主規制と競争政策	
担当 科目	経済法 法情報処理	
著書 論文	「英国競争法の最近の動向ー競争・市場庁の創設を中心に」 （『競争法の理論と課題』所収）、『欧州と日本における証 券取引所グループの合併と競争法』（同志社法学 71 巻1号） ほか多数	
「経済法」では、主にカルテル規制を中心に独占禁止法の問題を 検討する。「法情報処理」では、法学部出身者以外による法学の 修士論文作成に必要なスキルの習得を目指す。		

色川 豪一 講師		修士(法学)
専門	民法(家族法)、離婚後の面会交流、遺骨の帰属、	
分野	フランス法と比較研究	

担当	民法総則	
科目		

著書	「遺骨の帰属ー死者と親族関係にない者が関わる事案ー」	
論文	(2020)、「嫌いにならない法学入門」(第6章「家族法」) ほか多数	

民法の条文の意味内容と関連する判例・学説について把握したうえで、受講者が主体となって判例研究を行い、民法に関する基本的な知識を習得する。		

浦川 源二郎 講師		博士(法学)
専門分野	恩赦の基礎理論、怒りの哲学	
担当科目	行政作用法	
著書論文	「不法移民と時間の関係の法的検討」(広島大学リポジトリ) 「私人間での平等の判断枠組みと犠牲者の視点に関する現代の一考察」(広島法学 48 巻 4 号)	
行政法全体と関わる一般法理や、行政の対外的活動に関する法的問題について学ぶ。		

池井 優佳 講師		博士(商学)
専門分野	監査	
担当科目	監査論	
著書論文	「監査品質の地方分権化」、「千里山商学」第70号、pp.1-23、2017年。 「監査市場における寡占と競合に関する研究」、「千里山商学」第71号、pp.1-32、2018年。	
監査人の特定の業種における専門性が、監査の品質に与える影響の分析。		

滝西 敦子 准教授		博士(経済学)
専門 分野	財務会計、国際会計	
担当 科目	会計学研究 会計学演習	
著書 論文	"IFRS Adoption, Earnings Quality, and Investment Efficiency: Evidence from Japan." <i>Taiwan Accounting Review</i> . 16(2). 219-257. 2020. (共著) ほか多数	
社会経済の発展に伴い、企業会計も変化しつつある。講義では、基礎論文を渉猟しながら会計学の諸問題を把握し、かつ解決する力を育むことを目指す。		

右近 潤一 教授		修士(法学)
専門分野	民法、消費者法	
担当科目	法学特殊研究	
著書論文	「返品制度のあり方」(現代消費者法 30 号)、「書面不備に基づくクーリング・オフ権の行使を妨げる事由」(京都市大学紀要) ほか	
消費者法を取り上げる。様々な法律を扱うが、様々な起こる消費者問題に法律がいかに対処しようとしているかを講義し、また、どのような問題があるかを論文とともに読むことで学ぶ。		

経営学研究科

【2022年4月開講】

京都太秦キャンパス

Graduate School of Business Administration

経営管理専攻（ビジネススクール） 修士課程 [修士（経営学）]

Major in Business Administration [Master of Business Administration]

デジタル化、AIなどの技術革新、環境・社会への意識の高まりにより予測が難しい時代において、変化に対応し、イノベーションを生み出す人材を養成するため、実務家や研究者からなるグローバルな教授陣が、経営・経済学に加え、DXなどの先端領域を教え、多岐にわたる専門知識と論理的思考力のある人材を育成します。具体的には、既にエンジニアバックグラウンドのある社会人等に対しては、経営管理学の基礎を十分に身につけて企業経営全般に関わる意思決定と実行が担当できる経営人材へと養成します。文科系人材に対しては、今後のビジネスモデル構築、新商品・サービスの供給、社内資源の効率活用・業務運営に欠かすことのできないテクノロジーに関する正確な知見を身につけて、既成概念や古い経営手法にとらわれない企業変革に貢献できる人材へと養成します。

めざすこと

- ① 経営者としてグローバルに通用する汎用性・実践性の高い人材の育成
- ② プロフェッショナルとして社会に必要とされる専門性の高い人材の育成



経営学研究科では、経営管理専攻（ビジネススクール）のみの募集を行います。本専攻は、激変する国際的な経営環境の中でレジリエントに対応できる経営者を育成することを目指しています。まず、経営学の基礎的知見を修得した後に、DX経営・ESG投資・ブランディング・ものづくり経営などの先端的知見やイノベティブな技術の開発・管理の方法を学んでもらいます。また、ビジネススクールには珍しく、毎週2時間の研究指導の時間を設けています。研究指導は「対話」形式で行われ、専門の講義で学んだ、先端的ではあるが断片的な知識を1つの問題解決に向けて統合する訓練をします。社会人の修学を支援するため、土曜日と平日の夜間に、オンラインも含めた柔軟な形式で開講します。

経営学研究科長 徳賀 芳弘

研究内容や教育内容

近年はVUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity）の時代と言われており、将来予測が困難な状況にあります。VUCAの深化と併行して、デジタル化は急速に進展し、またAI・ITの技術革新が生活や産業に浸透し、ビッグデータの利用も容易になりました。他方で、SDGsやESGについての意識がグローバルに共有されつつあります。

経営者はこのような急激な経営環境や人々の意識の変化に柔軟に対応しなければなりません。変化が常態となった現状において、変化に対応できる汎用性の高いスキルを持った経営人材が求められています。



京都太秦キャンパス Future Center



本ビジネススクールにおいては、コミュニケーション・スキルやデータ解析スキルの獲得はいうまでもなく、修士論文の執筆指導においては、多数の専門知識の深化のみならず、それら相互の関係性を理解して、これらを統合する論理的思考や実践知を鍛えます。このことは、本ビジネススクールが、「修論を課さない専門職修士制度を採用していない」理由でもあります。

講師に関しましては、本学の精鋭に加えて、各分野でグローバルに活躍されてきた実務家や研究者を選び抜き、わが国でトップクラスの教授陣を描えることができました。講義は日英のハイブリッド方式ですが、英語開講科目の履修のみで修了できる講義数を用意しています。

グローバルな視点を持ち、 新たな時代で活躍できる経営人材を養成

デジタル化の加速、AIなどの技術革新、SDGsやESGへの意識の高まりなどにより、企業を取り巻く環境が変化し続け、将来の予測が困難な時代となっています。本研究科では、時代と人々の意識の変化に対応し、イノベーションを生み出す人材を養成します。教員はグローバルに活躍してきた実務家や研究者で構成され、経営・経済学の知識やビジネス分析スキルに加え、DX（デジタルトランスフォーメーション）やデータサイエンスなどの「先端領域」を学ぶことができ、さらに多様な専門知識を深め、相互関係を理解し統合する論理的思考力を修得します。

めざすキャリア

- | | | |
|---------------------------------------|---|-------------------------------------|
| ☐ 企業の経営者、経営幹部 | ☐ ベンチャーキャピタリスト | ☐ 銀行家、投資銀行家 |
| ☐ 起業家 | ☐ 企業や金融機関のリスクマネージャー | ☐ ファンドマネージャー |
| ☐ CFO（最高財務責任者） | ☐ CIO（チーフインフォメーションオフィサー） | ☐ 経営コンサルタント |

経営学研究科経営管理専攻の養成する人材像及び目的を実現するために、必要な授業科目及び研究指導を体系的・組織的に実施する教育課程を編成します。本専攻のカリキュラム・ポリシーは以下のとおりです。

1. 授業科目を「コア科目」、「応用科目」及び「演習科目」の3つに分け、体系的に編成された教育課程を1年次から積み上げる形で履修できるようにする
2. 研究指導教員（スーパーバイザー）の指導の下で、学部時代の専門が理系の場合、文系で経済経営の場合、及び文系のその他の場合に分けて、それぞれが経営管理専攻で開講される応用科目・演習科目をスムーズに履修できるように、コア科目、既存の経済学研究科の開講科目、経済経営学部で開講されている科目の履修を促す
3. 1年次の段階から学位論文仮題目を設定し、研究手法、論文執筆方法を基礎から学ぶ。また、論文審査の客観性・透明性の確保や研究水準の向上を図る観点から、本学教員や院生が参加可能な「中間報告会」、及び「最終口頭試問」での報告と討論を義務化し、段階的指導を行う

コア科目 ☐ 経営戦略 ☐ ファイナンス ☐ マーケティング ☐ アカウンティング ☐ 人的資源管理 ☐アントレプレナーシップ ☐ 技術管理 ☐ 経済学 ☐ データ解析	応用科目 ☐ DX経営戦略 ☐ 企業変革 ☐ グローバル経営 ☐ ブランドマネジメント ☐ ESG論 ☐ M&A ☐ 資産運用論 ☐ 国際財務報告 ☐ 国際金融 ☐ イノベーション ☐ CSV ☐ 税法概論 ☐ 企業改革税制 ☐ 税務会計 ☐ サステナビリティ経営 ☐ 国際課税 ☐ 国際経済学	演習科目 ☐ コーポレートガバナンス ☐ 異文化コミュニケーション ☐ 技術開発 ☐ 経営管理特殊講義I・ビジネスデザイン ☐ 経営管理特殊講義II・データサイエンス ☐ 経営管理特殊講義III・リーダーシップとコミュニケーション ☐ 経営管理特殊講義IV・ものづくり経営学 ☐ 経営管理特殊講義V・フューチャーデザイン ☐ 経営管理特殊講義VI・ヒンドゥーとインド文化 ☐ 経営管理特殊講義VI・国際政治学
		研究指導 ☐ 研究指導

ADMISSION POLICY

求める人物像

経営学研究科は、グローバルな視点を持ち、新たな時代で活躍できる経営人材を養成することを目指しているため、具体的には、次のような資質と能力を持つ学生を求めています。

1. 経営管理の理論・実践を修得したいという強い意欲を有している者
2. 国際的に通用する修士課程学位の授与のため、高い英語力を有している者
3. 新しい知見を社会実装してイノベーションを起こす人材の育成を目的とした教育課程とプログラムに対して、旺盛な知的意欲と社会的役割をもって参加し、相互に切磋琢磨できる資質を有する者
4. 幅広い教養と経営学など専門分野について基礎知識・能力を有し活用できる者

FACULTY

教員紹介

井川 佳実 教授		博士(経済学)
専門分野	組織行動、グループ経営、イノベーション、経済安全保障	
担当科目	研究指導	
著書論文	「中小企業の知識移転を促進する境界活動のマネジメント」『経済論叢』、京都大学経済学会、第197巻第1号 2023年2月、35-50頁。 「Japan and the European Union」鈴木均、鈴木悠、井川佳実、『Encyclopedia of European Union Politics』(Oxford University Press, 2021年)	
企業間関係をベースにした、企業成長における知識移転の分析。イノベーションの継続。新しい予防医療サービスを普及させる行政の仕組み構築についての研究。		

清水 裕子 教授		博士(経営管理)
専門分野	国際経済学、経済政策論、環境経済	
担当科目	国際経済学 研究指導	
著書論文	『「素顔の国際結婚」の今』明石書店、2024年。(共著) Blowing Hot Air on the Wrong Target? Critique of the fossil fuel divestment movement in higher education. Canadian Electronic Library, 2016.	
グローバル化の発展とその経済・社会・環境への影響を、国際貿易(特にサプライチェーン)の視点から分析・研究。歴史的観点や公共政策、環境政策もカバー学際的に研究。		

森 一彦 教授		社会学修士
専門分野	ブランドマネジメント、マーケティング、サービスデザイン	
担当科目	マーケティング ブランドマネジメント 研究指導	
著書論文	『インダストリーイノベーション時代のブランディングー「モード・シフト」するブランディングからの問題提起ー』『マーケティングジャーナル』第39巻1号、6-23頁、2019。 『デジタル・トランスフォーメーションと行動喚起型広告コミュニケーションーコンテンツとしての広告概念の可能性に向けてー』『日経広告研究所報』第53巻5号、3-9頁、2019。	
デジタル化による社会・経済・産業・企業などの変化に並行して、 (1) 企業の目的や存在意義(バーバス)からのブランディング、 (2) 新しいサービスにおける動き(S-DL、サービスデザイン)からのマーケティング、 (3) 人間の枠組みからのクリエイティブ・アプローチ(デザイン思考、アート思考)などをテーマに研究している。		

ゴ 呉 綺 准教授		博士(経営学)
専門分野	管理会計、環境会計	
担当科目	サステナビリティ経営 研究指導	
Material Flow Cost Accounting (MFCA) for the Circular Economy: An Empirical Study of the Triadic Relationship between MFCA, Environmental Performance, and the Economic Performance of Japanese companies. <i>Journal of Environmental Management</i> , 303, 114219, 2022. (共著) Environmental Management Control Tools for Promoting Sustainable Consumption and Production in Thai and Vietnamese Companies. <i>Global Environmental Research</i> , 25 (1&2), 51-56, 2021. (共著)		
企業のサステナビリティ会計・経営に関する実証研究。現在は、サーキュラーエコノミーを指向する環境マネジメント・コントロール・システムの構築およびサステナビリティ会計の国際的研究を課題に取り組んでいる。		

小野里 光広 教授		修士(法学) 修士(国際経営学)
専門分野	コーポレートガバナンス、比較会社法	
担当科目	コーポレートガバナンス	
著書論文	「コモンウェルス法域における株主代表訴訟の事前許可要件」『国際取引法学会』第10号、195-212頁、2025。 「アメリカ法におけるESG情報開示とその訴訟」『国際取引法学会』第8号、49-60頁、2023。	
コモンウェルス法域(イギリス法系)諸国の取締役の義務と責任、コーポレートガバナンス分野について、日本とアメリカなどと比較分析・研究。		

徳賀 芳弘 教授		博士(経済学)
専門分野	国際会計、財務会計、企業分析	
担当科目	研究指導	
著書論文	『国際会計論ー相違と調和ー』中央経済社、2000年。 <i>Accounting Regulation in Japan: Evolution and Development from 2001 to 2015</i> (1st ed.). Routledge, 2019. (共著)	
外生的な会計基準(IFRS)が導入された場合に導入国において発生するコンフリクトと導入国政府・企業のコンフリクト解消行動の分析。		

山本 名美 教授		経営学修士
専門分野	SNS・AI時代のコミュニケーション、リーダーシップ、メディア論、ビジネス・ストーリーテリング	
担当科目	経営管理特殊講義Ⅲ：リーダーシップとコミュニケーション	
著書論文	テレビ東京報道局編著「スミスの本棚ー新しい自分が見つかる読書ー」日経BP社、2013年。(共著) テレビ東京報道局編「ガイアの夜明け 闘う100人」日本経済新聞社、2005年。(共著)	
SNS時代のコミュニケーション論、メディア論/ビジネス・ストーリーテリング/ステークホルダー・リレーションズ		

加藤 康之 教授		博士(経済学)
専門分野	ファイナンス理論、金融工学、ESG投資	
担当科目	ファイナンス ESG論 資産運用論 研究指導	
著書論文	「ESG投資の研究ー理論と実践の最前線ー」(編著)一灯舎、2018年。 「社会的リターンは経済的リターンにつながるか?ー因果関係モデルによるESG投資の未来シミュレーション分析ー」『証券アナリストジャーナル』第60巻2号、67-79頁、2022。(共著)	
現在は、主に以下の分野を研究。 (1) 機関投資家の投資戦略 (2) 企業のESG経営とリスクマネジメント (3) ESG投資における社会的インパクトと経済的価値		

名和 高司 教授		経営学修士
専門分野	グローバル経営、成長戦略、イノベーション、企業変革、リーダーシップ	
担当科目	経営戦略 アントレプレナーシップ DX経営戦略 企業変革 グローバル経営 CSV	
著書論文	『「バーバス経営ー30年先の視点から現在を捉えるー』東洋経済新報社、2021年。 「経営改革大全ー企業を壊す100の誤解ー」日本経済新聞出版社、2020年。	
バーバス経営の実践と、その牽引力となるイノベーションに関する研究。		

ガウタン レイ Gautam RAY 教授		MA(Economics) and Ph.D.; LL.B; M.Sc.(Chemistry)
専門分野	Social and Cultural Resources for Inclusive and Sustainable Development of Human Societies; Supply Chain Management	
担当科目	経営管理特殊講義Ⅴ：ヒンドゥーとインド文化 研究指導	
著書論文	Modeling Transportation in General Equilibrium. In Transportation, Knowledge and Space in Urban and Regional Economics, 47-76. Edward Elgar Publishing, 2018. ASEAN-India Economic Partnership for Growth and Inclusive Development in the Region. In Economic Integration and Regional Development: The ASEAN Economic Community 45-57. Routledge, 2018.	
Supply Chain Management and Hindu Spirituality and Indian Culture, the two courses I teach, have been designed to promote liberal arts education in our school.		

David Martyn Lewis WILLIAMS 准教授		B.Eng(Information Systems Engineering) Ph.D.(computer Science)
専門分野	Entrepreneur Psychology, Startup Ecosystems, Public Policy for Innovation Data Science for Business, Digital Twins, Machine Learning, Edge Computing, Neuromorphic Computing, IoT, Metaverse Interactions, Quantified online-selves, Business Ethics of AI, Super Intelligence.	
担当科目	経営管理特殊講義Ⅱ：データサイエンス 研究指導	
EDMOJO : Co-creation of Design Education by Industry and Institute to Prepare Expat Students to Enter the Local Job Market. A Pleasure-Based Framework for Effective Interactive Brand Communications. Collaborative Design for Strategic UXD Impact and Global Product Value. Design Guidelines for Setup Procedures of Mobile Terminals and e-Services		
David speaks 5 languages and has lived or worked in over 20 countries. He sees the harmony of arts, science, engineering, and business; along with Eastern and Western traditions, as the DNA of successful 21st century businesses and business professionals.		

有賀 裕二 特任教授		博士(経済学)
専門 分野	ミクロ経済学、進化経済学、社会経済物理学	
担当 科目	ミクロ経済学 経済理論研究講義 A 経済学	
著書 論文	Evolutionary Economics, Springer Nature, 2024 (単著) Digital Designs for Money, Markets, and Social Dilemmas, Springer Nature, 2022 (編著)	
人工知能市場シミュレータの設計の観点からエージェントベースモデリングを研究するほか、エージェントの意思や目的がダイレクトに支配しない確率過程モデリングを研究している。		

村井 淳一 特任教授		修士(法学) 税理士
専門 分野	企業間利益移転、資本等取引に係る法人税	
担当 科目	税法概論	
著書 論文	『税務訴訟と要件事実論』（共著：清文社）、『中小企業の会計に関する指針ガイドブック』（共著：清文社）ほか多数	
税法の基礎理論を前提としつつ、税目ごとの知識にとどまらず横断的な理解に主眼を置いて、現実の経済活動に税法を的確に当てはめるための理論的な思考力を身につけられるよう、議論し研究する。		

有福 英幸 特任教授（非常勤）		学士(工学)
専門 分野	共創、バックキャストイング、ファシリテーション、 ワークショップ	
担当 科目	経営管理特殊講義Ⅰ：ビジネスデザイン	
著書 論文	『授業力&学級経営力【特集 こうすれば話し合いがもっとうまくいく!】』明治図書、2022 年。（共著） 『発電設備産業での未来シナリオとフューチャー・デザインに関する研究』（共著）日本材料学会、JCOSSAR2019, 2019.	
専門は、共創プロセスのデザインとファシリテーション。特に「バックキャストイング」アプローチによる社会課題の解決や、新規事業の創出を得意とし、共創を促進する人材育成に展開。		

谷口 隆義 特任教授（非常勤）		博士(経済学)
専門分野	会計制度、税制	
担当科目	企業改革税制	
著書論文	『ミャンマー会計制度の研究』中央経済社、2019 年。 『ミャンマーにおける企業会計の現状と課題 一軍事政権の残照 一』[国際会計研究学会年報]2017 年度第 1・2 合併号、147-159 頁。	
(1)	アジア諸国の会計制度に研究 ミャンマーを中心に会計制度の歴史を検証し、その運用実態を調査。	
(2)	企業改革税制 組織再編税制を中心に、企業の周辺環境の変化に対応し、または戦略的に自ら体制整備を行う場合の税制検討。	

平岡 理恵 特任教授 (非常勤)		Ph.D, Development Study,Cornell
専門 分野	Human Development, Public Policy, Development Financing	
担当 科目	国際金融	
著書 論文	How can Pakistan achieve better education and learning outcomes through effective and quality local public spending? (2020)	
	Assessing Japan's Innovation Policy Landscape: Missed Opportunities to Nurture Doctoral Talent (2025)	
How to build human capital to achieve economic development. Public policy on science and technology development, and towards net zero economy.		

西條 辰義 特任教授		博士(経済学)
専門分野	フューチャー・デザイン	
担当科目	経営管理特殊講義Ⅴ：フューチャー・デザイン	
著書論文	Future Design for Creating a World Worth Inheriting, Springer, 2025	
現世代と将来世代の「しあわせ」をめざす仕組みのデザイン。		

山田 浩史 特任教授		経営学修士
専門 分野	国際会計、ディスクロージャー	
担当 科目	アカウティング	
著書 論文	「のれんの減損テストのための IASB のヘッドルーム・アプローチ」『同志社商学』第 73 巻第 3 号、89-126 頁、2021。 「四半期開示の見直しの概要と今後の法令・基準等改正の課題」『週刊経営財務』No.3589、34-47 頁、2023。	
専門は国際会計とディスクロージャー。現在は以下のテーマを研究。 (1) 企業結合とのれんの会計基準の国際的なコンバージェンス (2) 我が国の四半期開示の見直し (3) サステナビリティ開示の国際的なコンバージェンス		

伊藤 友則 特任教授（非常勤）		経営学修士
専門分野	企業金融、M&A	
担当科目	M&A	
著書論文	「クロスボーダー M&A と経営」『一橋ビジネスレビュー』第 60 巻 4 号、28-44 頁、2013。 「日本企業のクロスボーダー M&Aー日本たばこ産業の事例に見る 10 の成功要因」『一橋ビジネスレビュー』第 60 巻 1 号、92-106 頁、2012。	
(1) 日本企業の M&A の成功要因 (2) 日本における資本コストと資本構成 (3) CSV 経営と資本市場		

灘原 壮一 特任教授 (非常勤)		理学博士
専門分野	分析化学、半導体プロセス技術	
担当科目	技術開発	
著書論文	『酸化・拡散プロセスのクリーン化』服部毅編著『シリコンウェーハ表面のクリーン化技術』所収、リアライズ社、2000 年。 Effects of BCl3 Addition to Cl2 Gas on Etching Characteristics of GaN at High Temperature. <i>Journal of Vacuum Science and Technology B, Nanotechnology and Microelectronics: Materials, Processing, Measurement, and Phenomena</i> , 37(2), 021209. (共著)	
半導体産業をベースとして、技術開発をビジネスとして成功に導くためのプロセス、組織、文化、外部連携などイノベーションマネジメントについて取り組む。		

藤本 隆宏 特任教授（非常勤）		経営学博士
専門 分野	技術・生産管理、進化経済学	
担当 科目	経営管理特殊講義Ⅳ：ものづくり経営学	
著書 論文	『製品開発力ー自動車産業の組織能力と競争力の研究（増補版）』ダイヤモンド社、2009 年。（共著） 『生産マネジメント入門（Ⅰ）生産システム編』日本経済新聞社、2001 年。 『生産マネジメント入門（Ⅱ）生産資源・技術管理編』日本経済新聞社、2001 年。	
生産・開発管理（Production and Development Management）を「顧客へ向かう付加価値（設計情報）の流れを作るものづくり経営学」と規定し、その理論的・実証的分析を行う。理論的には、産業システムの進化経済学の分析枠組を探究している。		

鶴田 靖人 特任教授		修士(経営学)
専門分野	企業金融全般、特に株式資本市場 金融派生商品	
担当科目	技術管理	

バリッサ ハギリアン Parissa HAGHIRIAN 特任教授		Ph.D in International Marketing
専門 分野	Japanese Management and Marketing, Cross-cultural Management、 Strategic Management	
担当 科目	マーケティング 研究指導	
著書 論文	Overcoming Crisis – Case Studies of Asian Multinational Corporations. Singapore: World Scientific Publishing, 2023. Doing GOOD Business in China—Case Studies in International Business Ethics. Singapore: World Scientific Publishing, 2021.	
Japanese Management, International Management and Marketing, Cross-cultural Management and Communication.		

木谷 哲夫 特任教授（非常勤）		経営学修士 （専門職）
専門 分野	イノベーションマネジメント、アントレプレナーシップ、 ベンチャーファイナンス	
担当 科目	イノベーション	
著書 論文	『成功はすべてコンセプトから始まる』ダイヤモンド社、2012。 『ケースで学ぶ実戦・起業塾』（編著）日本経済新聞出版社、 2010。 『コレクティブ・アクションと業界標準』『経営情報学会誌』 第18巻1・2号、2009。	
アントレプレナーシップ教育に長年従事している。イノベーション理論 の変遷とその時代背景に関心を持っている。		

西口 敏宏 特任教授（非常勤）		社会学博士
専門 分野	経営学、ネットワーク論、組織間関係論、新公共経営	
担当 科目	経営管理特殊講義Ⅳ：ものづくり経営学	
著書 論文	『防衛調達論』中央経済社、2022 年。（共著） 『コミュニティ・キャピタルー中国・温州企業家ネットワーク の繁栄と限界ー』有斐閣、2016 年。（共著）	
経営環境の激変する中、プレーヤー数は激増し、変動する。他方、 一足先すら読めない状況が続く「不可知への備え」が要請される。 こうした今日の課題にいかに対処すべきか近年のケースをもとに探求 する。		

三谷 英彰 特任教授（非常勤）		学士（経済学）
専門分野	国際税務、国際会計	
担当科目	国際課税	
著書論文	『グローバル時代における国際交流のあり方と日税連の国際関係事業の今後の方向性』2023 年。	
税務分野では実務に携わるとともに国際課税と租税法全般の研究を進めており、会計分野では、日本以外の会計基準の実務・研究を行っている。		

森棟 公夫 特任教授 (非常勤) 博士 (経済学)

専門分野	計量経済学、統計学
担当科目	データ解析
著書論文	『統計学入門』新世社、1990 年 "The t test in a Structural Equation", <i>Econometrica</i> , vol.57, 1989.
計量経済学における推定および検定に関する理論的な研究	

山田 善隆 特任教授 (非常勤) 会計学修士

専門分野	会計基準 (日本基準・IFRS)、国際サステナビリティ報告基準、監査実務
担当科目	国際財務報告
著書論文	『IFRS 会計学基本テキスト(第7版)』中央経済社、2022 年。(共著) 「内部統制監査と財務諸表監査の関係性からの内部統制報告制度の将来像に関する一考察」『現代監査』第 25 号、104-112 頁、2015 年。
下記領域について実務家の視点から研究。 (1) 会計基準の国際比較、会計基準の実務適用及び財務報告全般 (2) 財務報告以外の企業報告 (3) 財務諸表監査、内部統制監査、その他保証業務及び不正調査業務	

吉田 敏 特任教授 (非常勤) 博士 (工学)

専門分野	技術経営、設計理論、建築生産
担当科目	技術管理
著書論文	『建築ものづくり論 - Architecture a "s Architecture" -』有斐閣、2015。(共著) 『技術経営 - aMOT の体系と実践 -』、理工図書、2012。(編著) 『Beyond Innovation - 「イノベーションの議論」を超えて -』丸善プラネット株式会社、2009。(共著)
製品やサービスを創る設計者や生産者が、どのような傾向の思考を持ち、どのような強みや弱みがあるのか、論理的に考えていくことに取り組んでいる。	

ウ ス ビ サ コ
Oussouby SACKO 特任教授 (非常勤) 博士 (工学)

専門分野	コミュニティ論、建築計画
担当科目	異文化コミュニケーション
著書論文	『現代アフリカ文化の今 - 15 の視点から、その現在地を探る -』(編著) 青幻舎、2020 年。 The Involvement of Local Communities in the Conservation Process of Earthen Architecture in the Sahel-Sahara Region: The Case of Djenné, Mali. <i>Built Heritage</i> , 5(1), 26, 2021.
「居住空間」「京都の町家再生」「コミュニティ再生」「西アフリカの世界文化遺産 (都市と建築) の保存・改修」など、社会と建築空間の関係を様々な角度から調査研究を進めている。	

ティナ バ レ ッ ト
Tina BURRETT 特任教授 (非常勤) Ph.D. in Social and Political Science

専門分野	Political Science
担当科目	経営管理特殊講義Ⅵ：国際政治学
著書論文	Burrett, T. Contemporary Prime Ministerial Leadership in Britain and Japan, London, Palgrave Macmillan, 2023.
My research focuses on the intersection between the media and politics. Specifically, my publications analyse media freedom in Russia and Russia's international propaganda. I also work of political leadership in Britain, Japan and Russia.	

鈴木 寛之 特任准教授 (非常勤) 博士 (会計・金融)

専門分野	管理会計、原価計算
担当科目	アカウンティング
著書論文	Preparing for serendipity: an illustrative analysis of participation in the field. <i>Accounting, Auditing & Accountability Journal</i> , 37(3), 816-839, 2024. (共著) Investment centre manager's multiperiod fairness perceptions and intertemporal dependency. <i>Accounting & Finance</i> , in-press. 「京セラ・アเมอร์バ経営と経営環境の変化 - 責任会計論と管理者行動の観点から -」アเมอร์バ経営学術研究会編「アเมอร์バ経営の進化 - 理論と実践」所収、中央経済社、211-232 頁、2017 年。
管理会計に関する日本企業の実務を研究対象とし、インタビュー調査などの定性的手法を用いて、特に会計情報と人間行動や文化社会との関係性に注目して研究。	

人間文化研究科

Graduate School of Human Culture

京都太秦キャンパス

人間文化専攻 修士課程

価値観の多様化が進む中、人の生き方や社会システム、文化の機能などを再評価する研究が求められています。「文化研究」「社会情報」「心理学」の3つの領域を組み合わせることで、現代の課題にアプローチします。（公財）日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院に認定されており、臨床心理学コースでは「臨床心理士」と「公認心理師」の両方の受験資格が取得できます。また、文化研究コースと社会情報コースでは中学校教諭（社会）の専修免許が、加えて文化研究コースでは高等学校教諭（地理歴史）の専修免許が取得できます。

めざすこと

人間や社会に対して深く理解でき、1つのことに突き抜けた高度専門職業人・研究者を養成します。



人間文化研究科で1つのことを突き詰めて、突き抜けた研究をしよう！

皆さんはなぜ大学院に行きたいと思っているのですか？もちろん「研究」するためですね。それでは「研究」とは何でしょうか？大学生の頃に気づいていたと思いますが、高校までの「勉強」は答えのある問題をできるだけ効率的に解くことでした。大学入試に合格するためにはかなりの時間「勉強」をしなければなりません。このような高校までの「勉強」とは違って、大学や大学院での「研究」は、まず自分で問題を見つけることから始まります。そしてその問題の答えをいろいろな方法で見つけようとしています。もしかしたら、そもそも答えがないかもしれません。しかしその問題を考え抜くプロセスが大切です。その問題を突き詰めて考え続けることで、気がついたら突き抜けた研究をしています。人間文化研究科はそういう1つのことを突き詰めて研究しようと思っている人を歓迎します。一緒に突き抜けましょう！

人間文化研究科長 佐藤 嘉倫

研究内容や教育内容

心理学コース



能力の限界を超えて —— 原田佑規 准教授

技術を用いることで人の能力を高めることを「人間拡張」と言います。例えば、眼鏡をかけることで視力を高めるのも人間拡張です。人間拡張は、リハビリ、スポーツ、教育などさまざまな分野で注目されており、今後の成長分野の1つであると予測されています。そこで、VRなどのサイバー技術と心理学実験を組み合わせることで、知覚・認知・運動の能力を高めるための基盤研究を行っています。

臨床心理学コース

「こころの問題で苦しむ人をどう支える？」を研究する —— 小山智朗 教授

こころの問題で苦しむ人たちに、どのように関われば良いのでしょうか？単に問題を取り去るだけでは、同じ状況で、再び同じような問題に陥ってしまいます。私はその苦しい体験を心の成長の機会とするために、心理療法家としてどのように関われば良いのかを研究しています。



社会情報コース



私たちが生きるこの現代社会について、それがどんな社会なのかを考える —— 岡本裕介 教授

インターネットと、過疎化が進んだ農山村という、ある意味で両極端の社会をフィールドに、人々のつながりのあり方を研究しています。研究をとらえて見ようとしているのは、私たちが生きているこの現代社会がどんな社会かということです。授業でも、このとらえどころのない「現代社会」へのアプローチを体験的に学べるようにしています。

文化研究コース

過去の人びとの心の歴史を科学的に解明する —— 佐藤文子 教授

京都には多くのお寺や神社があり、毎日たくさんの観光客が訪れています。そこに残された建物や古文書、くり返されてきた祭りや作法は、人間の精神の歴史です。大学院では、専門的技術を駆使してそれらの歴史資料を観察分析し、現代人とは異なる過去の人びとの歴史を解明し、日本文化の古層についての理解を深めていきます。



文化・社会・人間の心を複眼的に追究。 高度な専門職業人の養成をめざします。

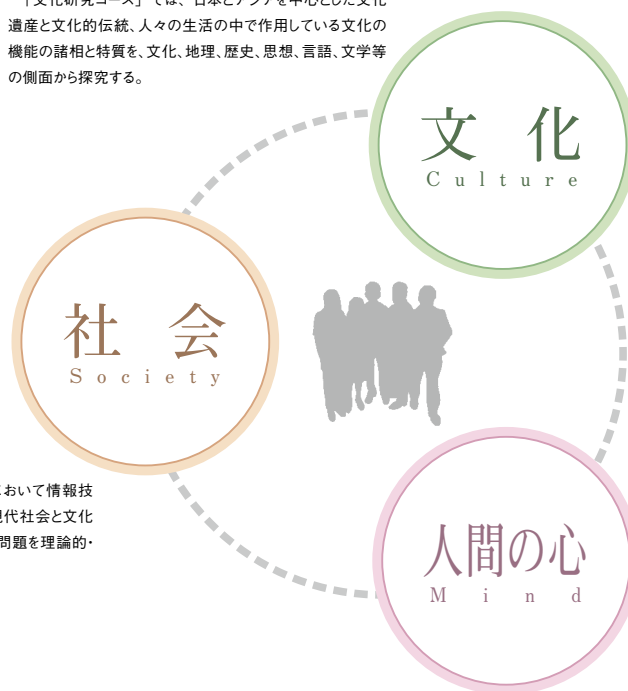
人々の価値観が揺らぎ、人間関係を形成する社会システムも人間の心の中も、従来の価値体系では解決策を見いだせない現代。人間の生き方、社会システムの在り方、文化の機能を多角的に解明する学問の構築が求められています。

人間文化研究科は、「文化研究」「社会情報」「心理学」の3つの教育研究領域を有機的に連関させ、高度な専門職業人の養成を追究。臨床心理学コースは、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院で、国家資格である「公認心理師」の受験資格も取得することができます。また、文化研究コースと社会情報コースでは中学校教諭（社会）の専修免許が、加えて文化研究コースでは高等学校教諭（地理歴史）の専修免許が取得できます。



〈文化研究領域〉

「文化研究コース」では、日本とアジアを中心とした文化遺産と文化的伝統、人々の生活の中で作用している文化の機能の諸相と特質を、文化、地理、歴史、思想、言語、文学等の側面から探究する。



〈社会情報領域〉

「社会情報コース」では、各種メディアにおいて情報技術が発達するとともに大きく変動しつつある現代社会と文化の動向を探り、そこに生じる新たな社会的諸問題を理論的・実践的に研究する。

〈心理学領域〉

家庭・学校・地域社会などにおける実際の課題を発見し解決する人材を育成する「心理学コース」と、心の健康に関わる援助者としての心構えと知識、そして技能を備えた専門家を育成する「臨床心理学コース」の2つがある。人間の心の機能とその形成過程を解明する。

臨床心理学コース | 対人援助のエキスパートへ高度な知識とスキルを養成

人間文化研究科の臨床心理学コースは、「臨床心理士」と「公認心理師」の両方の受験資格が取得できるように、カリキュラムが編成されています。また、これらの資格取得後に医療・教育・福祉など幅広い分野で活躍できるよう、実践的な力を身につけることも目指します。心理面接・心理検査についての高度な専門知識・技術だけでなく、心理的援助の専門家としての考え方・姿勢・心構えを学びます。

めざすキャリア

中・高等学校教育の担い手

- ☐ 中学校教諭(専修免許状/社会) ※文化研究・社会情報のみ
- ☐ 高等学校教諭(専修免許状/地理歴史) ※文化研究のみ

人々の精神的健康の担い手

- ☐ 臨床心理士
 - ☐ 公認心理師
- ※臨床心理学コースのみ

CURRICULUM

カリキュラム

日本・アジアの文化と歴史を中心に研究する「文化研究コース」、現代の社会問題や情報メディアを研究する「社会情報コース」、認知・学習・発達・社会など心理学の各分野を研究する「心理学コース」、臨床心理士や公認心理師の受験資格の取得をめざす「臨床心理学コース」（日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院）の4コースを設定。多様な領域の研究者が本科を構成し、複眼的な研究ができる環境を作っています。

文化研究 コース	☐ 人間文化基礎特論 ☐ 日本歴史文化特論 ☐ 日本語文化特論 ☐ 日本古典文学特論 ☐ 文化人類学特論 ☐ 民俗学特論	【演習科目】 ☐ 日本歴史文化研究演習 ☐ 日本語文化研究演習 ☐ 日本古典文学研究演習 ☐ 文化人類学研究演習 ☐ 民俗学研究演習
	その他選択科目多数	

社会情報 コース	☐ 人間文化基礎特論 ☐ 社会学特論-1 ☐ 社会学特論-2 ☐ 社会学特論-3 ☐ 社会学特論-4 ☐ メディア学特論-1 ☐ メディア学特論-2 ☐ 学際研究特論	【演習科目】 ☐ 社会学研究演習-1 ☐ 社会学研究演習-2 ☐ メディア学研究演習
	その他選択科目多数	

心理学 コース	☐ 人間文化基礎特論 ☐ 心理学研究法特論 ☐ 認知心理学特論 ☐ 発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) ☐ 社会心理学特論 ☐ 集団心理学特論 ☐ 障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) ☐ 実験心理学特論 ☐ 計量心理学特論 ☐ 産業・労働分野に関する理論 と支援の展開 ☐ 感情心理学特論	【演習科目】 ☐ 心理学研究演習
	その他選択科目多数	

臨床 心理学 コース	☐ 人間文化基礎特論 ☐ 臨床心理学特論 ☐ 臨床心理面接特論 (心理支援に関する理論と実践) ☐ 臨床心理基礎実習 ☐ 臨床心理実習 (心理実践実習) ☐ 心理学研究法特論 ☐ 認知心理学特論 ☐ 発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) ☐ 社会心理学特論 ☐ 障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) ☐ 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) ☐ 心理療法特論 ☐ 臨床心理関連行政論 ☐ 心身医学特論 ☐ 臨床心理学研究法特論 ☐ コミュニティ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)	☐ 司法・犯罪分野に関する理論 と支援の展開 ☐ 産業・労働分野に関する理論 と支援の展開 ☐ 心の健康教育に関する理論と 実践 ☐ 学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開) ☐ 投影法特論 ☐ 臨床心理地域援助特論
	【演習科目】 ☐ 臨床心理査定演習 (心理的アセスメントに関する理論と実践) ☐ 臨床心理学研究演習	その他選択科目多数

年度により開講科目が変更されることがあります。

ADMISSION POLICY

求める人物像

本研究科は、本研究科修士課程の履修に必要とされる基礎的な能力を有し、なおかつ次のような資質を備えた人を求める。

文化研究コースでは、日本の文化遺産と文化的伝統、人々の生活の中で作用している文化の態様とその特質を地理、思想、歴史、言語、文学等の側面から教育研究したい者。

社会情報コースでは、各種メディアによる情報伝達技術に関心を持ち、現代の社会と文化に関する幅広い興味を有し、そこに生じうる社会的諸問題の解決に寄与する能力を身につけたいと考えている者。

心理学コースでは、人間として基本的な心理と行動を対象として教育研究したい者。

臨床心理学コースでは、人間の心に関する深い理解を基礎にして、臨床心理学を専門的に修得し、心の健康に関わる援助者としての心構えと知識・技能を兼ね備えた心の専門家を目指す者。

心理学コース

有馬 淑子 特任教授

博士(人間科学)

専門分野	社会心理学
担当科目	心理学研究演習 社会心理学特論 集団心理学特論 産業・労働分野に関する理論と支援の展開
著書論文	『集団と集合知の心理学』(ナカニシヤ出版) 『極端化する社会』(北大路書房) ほか多数

社会心理学の文献を読み、各自の問題意識に応じたテーマを設定して、修士論文を作成する。データ解析、テキスト分析などの実習を通じて、社会に活用可能な知識と技術を習得できるよう指導する。

行廣 隆次 教授

教育学修士

専門分野	心理統計学、認知心理学
担当科目	心理学研究演習 心理学研究法特論 計量心理学特論 実験心理学特論
著書論文	『コネクショニスト・モデルと心理学—脳のシミュレーションによる心の理解—』(北大路書房) 『ワーキングメモリ内での処理と貯蔵のトレードオフ—数の処理と空間処理を用いた検討—』(『人間文化研究』) ほか多数

認知心理学や計量心理学分野から研究テーマを選び、先行研究を踏まえて実証的な研究を行い、修士論文を作成する。

神原 歩 准教授

博士(心理学)

専門分野	社会心理学、認知心理学
担当科目	認知心理学特論
著書論文	『暮らしの中の社会心理学』(共著、ナカニシヤ出版)『読んでわかる社会心理学(ライブラリ読んでわかる心理学 10)』(共著、サイエンス社)『態度が相反する他者への過度なバイアス認知を 錯視経験が緩和する効果』(『心理学研究』) ほか多数

谷口 康祐 准教授

博士(文学)

専門分野	発達心理学、認知発達、視知覚、判断過程
担当科目	人間文化基礎特論 発達心理学特論
著書論文	『学校現場で役立つ 教育心理学』(北大路書房) 『The Categorization of Objects With Uniform Texture at Superordinate and Living/Non-living Levels in Infants: An Exploratory Study』(Frontiers in Psychology) ほか

自身の興味や関心に基づき研究課題を設定し、科学的な手法を用いて課題に取り組めるように指導する。

原田 佑規 准教授

博士(心理学)

専門分野	認知心理学、知覚心理学、実験心理学
担当科目	感情心理学特論
著書論文	『The effect of unusualness on the functional field of view in unsafe scenes』(Visual Cognition)、 『Quantitative evaluation of visual guidance effects for 360-degree directions』(Virtual Reality) ほか多数

臨床心理学コース

田中 史子 教授

博士(教育学)
臨床心理士
公認心理師

専門分野	臨床心理学
担当科目	臨床心理実習 臨床心理学研究演習 臨床心理基礎実習 心理実践実習 臨床心理学特論
著書論文	著書：『物語 (tale) の臨床心理学』(創元社) 論文：『矛盾、曖昧さ、荒唐無稽さを含んだ物語について—』[Lévy-Bruhl の『原始神話学』と臨床心理学的視点—] など

修士論文作成においては、大学院生自身の関心にしたがい、心理臨床の実践につながる研究テーマを選択し、そのテーマの追求を通して心理臨床家としての姿勢を学べるよう指導している。

山 愛美 特任教授

博士(教育学)
臨床心理士

専門分野	深層心理学、臨床心理学
担当科目	臨床心理学研究演習 臨床心理面接特論 臨床心理実習
著書論文	『言葉の深みへ』(誠信書房)、『黒の創造 香月泰男』(遠見書房)、『村上春樹、方法としての小説』(新曜社)、 『心理療法家がよみとく「君の名は。」』(新曜社) 他、日本人の精神性や文化に関する英文の論文のほか、ユング心理学に関する翻訳書も多数。

国内外の学術論文や著書などの文献を講読し、研究テーマを決定。各自の研究内容に即して、研究の目的、研究領域における位置付けを明らかにし、幅を広げる。

飯野 秀子 准教授

教育学修士
臨床心理士
公認心理師

専門分野	心理臨床学
担当科目	臨床心理基礎実習 臨床心理実習 臨床心理査定演習
著書論文	『ロールシャッハ法における、査定者の臨床イメージ体験のあり方と機能』「絵画表現の歴史から見たロールシャッハ法の陰影反応」ほか多数

上松 幸一 准教授

教育学修士
臨床心理士
公認心理師

専門分野	児童家庭福祉、心理アセスメント、対人援助技術
担当科目	臨床心理査定演習 臨床心理実習 臨床心理関係行政論
著書論文	『教育相談 一よわかる!教職エクササイズ—』(共著・ミネルヴァ書房) 『不登校児へのシステム論的視点を用いた介入—父子、母子合同箱庭を用いて—』(家族心理学研究)

心理テストの演習や事例検討などを用いて、心理臨床の現場で即戦力として活躍できるよう、指導を行う。
授業では、「自分で考える力」と「助け合う力」が特に重要視される。

小山 智朗 教授

博士(教育学)
臨床心理士
公認心理師

専門分野	心理臨床学
担当科目	臨床心理学研究演習 臨床心理面接特論 臨床心理学特論 心理実践実習
著書論文	『<私>を生きる心理臨床』(単著・創元社)、 『心理臨床における「見立て」』(共著・福村出版)、 『主生成プロセスをまなぞる視点提示の試み』(共著・創元社) ほか

心理的な問題で苦しむ人たちにいかに関わるのかを実践的に学ぶ。また描画法(バウムテスト、風景構成法)について習熟していく。その過程で様々な文献を講読し、研究テーマを決定し、修士論文を作成する。

菱田 一仁 准教授

博士(教育学)

専門分野	臨床心理学
担当科目	臨床心理学基礎実習 臨床心理実習 臨床心理学研究法特論
著書論文	『人形遊びの心理臨床』(創元社)、 『「造り物」の観点から見た箱庭と箱庭療法』、 『「遊び」の観点から見る箱庭と箱庭療法』、 『人形の象徴性と心理臨床における人形のあり方について』 など

不破 早央里 講師

博士(教育学)
臨床心理士
公認心理師

専門分野	臨床心理学、ユング心理学
担当科目	学校臨床心理学特論 臨床心理実習
著書論文	『箱庭療法の治療へのプロセス』(創元社) など

イメージを用いた心理療法、特に箱庭療法のプロセスについて研究を行っています。また、学校臨床に関する研究も行っています。

社会情報コース

岡本 裕介 教授 学術修士	君塚 洋一 特任教授 文学修士	佐藤 嘉倫 教授 博士(文学)
専門分野 コミュニケーション社会学	専門分野 メディア論、表現文化論、広告広報論	専門分野 社会学、ソーシャル・キャピタル論、社会的不平等論、社会変動論
担当科目 社会学研究演習 社会学特論	担当科目 メディア学研究演習 メディア学特論	担当科目 人間文化基礎特論 社会学研究演習
著書論文 『コミュニケーション社会学入門』（共著：世界思想社）『G.H. ミードの行動主義と「I」の他者性』ほか多数	著書論文 『還曲の社会史——「洋楽かぶれ」の系譜』（日本評論社）『文化としてのテレビ・コマーシャル』（共著：世界思想社）『イメージ編集』（共著：武蔵野美術大学出版局）ほか多数	著書論文 『AI はどのように社会を変えるか』（東京大学出版会）、『ソーシャル・キャピタルと社会』（ミネルヴァ書房） <i>Sociological Foundations of Computational Social Science</i> (Springer) など
コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。さまざまな社会的現象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。	メディア論、広告広報、ブランド、地域づくり、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。文献研究やサーベイとあわせ、メディアや地域の現場とのネットワークを活かした指導を行う。	参加者一人一人の研究関心に沿った指導をして、優れた修士論文執筆につなげる。
関口 久雄 准教授 修士(社会学) 修士(学際情報学)	小田中 悠 講師 博士(社会学)	滝本 香菜子 講師 博士(政策科学)
専門分野 メディア文化論	専門分野 数理社会学、計算社会科学	専門分野 幸福経済学、公共経済学
担当科目 メディア学特論	担当科目 社会学特論	担当科目 学際研究特論
著書論文 『インターフェイス～コンピュータと対峙する時』（ひつじ書房）『メディアのプリコラージュ』（冬弓舎）、『テレビ史の忘れもの』（銀河書籍）ほか多数	著書論文 『日常的な相互行為の数理社会学』（晃洋書房）『パンデミックとグローバル社会』（共著、晃洋書房）ほか多数	著書論文 The Cultural Basis of Economic Growth in India (Springer)、『東アジアの幸福：日中韓と東南アジア 4 カ国の比較』など

文化研究コース

佐藤 文子 教授 博士(文学)	手塚 恵子 教授 文学修士	丸田 博之 特任教授 博士(文学)
専門分野 日本古代史、日本宗教史、アジアの中の日本文化	専門分野 文化人類学、民俗学	専門分野 日本語史、キリシタン資料、狂言、中国・朝鮮資料、語源、京言葉
担当科目 日本歴史文化研究演習 日本歴史文化特論	担当科目 文化人類学研究演習 文化人類学特論	担当科目 日本語文化研究演習 日本語文化特論
著書論文 『日本古代の政治と仏教—国家仏教論を超えて』吉川弘文館 2018 年、『仏教がつなぐアジア』（共編）勉誠出版、2014 年	著書論文 『中国広西壮族歌垣調査記録』（大修館書店）、『京の筏 コモンズとしての保津川』（共著：ナカニシヤ出版）など	著書論文 『近世における「方言書」の見方について』（『近代語研究 21』）、『日葡辞書の編者とその周辺』（『国語国文』）ほか多数
歴史学は、自分とは異なる時空を生きる人々の行動原理を知る他者理解のサイエンスである。過去の人々の活動痕跡を博捜し、昔の文法で書かれた書物や墨で書かれた文字を解読し、専門分析を進めることで、その先にある人々の生の実像を論じていく。	文化人類学は文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。これらの基本的な文献を学び、その方法論を生かしてフィールドワークを行う。そこで得たデータを分析することを通じて、民族誌もしくは論文を書き上げる。	先行研究を精査しながら、各人がいかなる事象を研究対象とするのかを十分検討した上でテーマを設定し、日本語学の問題点を明らかにすることに全力を注ぐことができるよう指導を行う。
金子 貴昭 准教授 博士(文学)	佐々木 政文 准教授 博士(文学)	宮本 陽佳 准教授 博士(文学)
専門分野 近世出版史、近世文学、文化情報学、デジタル人文学	専門分野 日本近代社会思想史	専門分野 和漢比較文学、近世漢文学
担当科目 人間文化基礎特論 日本古典文学特論	担当科目 日本歴史文化研究演習 日本歴史文化特論	担当科目 日本古典文学特論
著書論文 『西川祐信「正徳ひな形」—影印・注釈・研究—』（共著、臨川書店）、『近世出版の板木研究』（単著、法蔵館）、『イメージデータベースと日本文化研究（バイリンガル版）』（共著、ナカニシヤ出版）	著書論文 『近代日本の思想変動と浄土真宗』（法蔵館）など	著書論文 『澤田一斎の「水滸傳」講義をめぐって』（『日本中国学会報』第 70 集）、『「和刻三言」採録篇に見える小説の評価について：施訓者の序を手掛かりに』（『中国文学報』第 93 冊）
書誌学や徹底的な本文批判の実践を通じて、近世文芸や近世出版の諸問題を解く。それにより歴史文化研究、とりわけ古典文学研究のための基礎力を確立する。こうした研究にデジタルがどう関わっていくかについても考える。	20 世紀前半の日本における宗教と差別の相互関係について研究しています。	
木場 貴俊 准教授 博士(歴史学)		
専門分野 日本近世文化史		
担当科目 民俗学特論 民俗学研究演習		
著書論文 『怪異をつくる日本近世怪異文化史』（文学通信、2020）、『歴史のなかの怪異・妖怪』（編著、河出書房新社、2025）ほか多数		

バイオ環境研究科

Graduate School of Bioenvironmental Sciences

京都亀岡キャンパス

博士課程前期／博士課程後期 バイオ環境専攻

未来の地球環境創出のためには、生命／食料／環境／農業についての総合的な「バイオ環境科学」を身につける必要があります。2025年から2学科体制に変わる学部に合わせて、大学院もより統合的な教育・研究体制になります。FuBEIC（未来バイオ環境共創センター）を核にした総合的研究、ゲノム解析やビックデータ解析を取り入れた最先端の演習、SDGs 関連の文理融合教育を行います。さらに、学内の4学部や他大学・研究機関などの連携はもとより、OICK（オープンイノベーションセンター・亀岡）を中心に多くの企業や自治体との共同研究を進めることで、バイオ環境の維持・発展のための新技術開発から社会実装までを視野に入れた研究教育を推進します。

めざすこと

ヒトと多様な生物が共存するバイオ環境を維持・創出するプロフェッショナルを養成します。



未来の地球を救うのはバイオ環境学

未来の地球を救うのはバイオ環境学です。バイオ環境学は、刻々と変化する地球環境の中で、自ら生物を観察・解析し、作物を育て、環境と生物の関係を生命科学の基礎知識を基に考えることで初めて身に付くものです。地球環境は、今未曾有の変化をしています。その中で、自分はどのような人生を送るのかを、本研究科が進める教育・研究を基盤として考える力を養います。さらに、国内外の多くの組織や機関と連携を進めることで、地球規模での未来を見据えるバイオ環境学のプロフェッショナルを目指しましょう。

バイオ環境研究科長 三村 徹郎

研究内容や教育内容

食と健康：健康寿命延伸に向けて、食品の機能性を多面的に評価する

健康な生活を維持増進するためには、生活習慣の中でもとりわけ食生活は重要であり、毎日食べている食品を単に栄養としてではなく、機能性成分を積極的に取り入れることで健康寿命を延伸できるように研究を進めています。さらに、亀岡市、医薬基盤研究所・国立健康栄養研究所とのコラボレーションで、コホート試験のデータから、運動も含めた生活習慣改善の提案を行っていきます。



環境と農業：水田生態系で多様な生物と共生する

アジアに広がる水田は、米の生産場所として食を支えると同時に、多様な生物との共生を実現してきました。生物多様性や生態系の回復が世界的な目標となっている現在、低投入持続型農業や有機農業などの取り組みと協働して、水田生態系のポテンシャルを活かし、より多くの生物と共生する環境を創出します。

地域食資源：京都の伝統農作物のゲノムを解明し、次世代の品種改良につなぐ

京都には、丹波の黒大豆や丹波大納言など、高品質な農作物があります。それらは昔から京都で受け継がれてきた在来品種が素材となっており、できあがった銘柄です。そうした伝統素材の特徴をゲノム解析等で解明し、品質の良さを残しつつ、今後の環境変動にも適応できる新品種の開発につなげることを目指します。



SDGs：河川とプラスチックごみ、微生物環境の関係を解き明かす

プラスチックによる海洋汚染は全地球的な問題です。陸域から海洋に至るプラスチックごみやマイクロプラスチックの流出起源や流出経路、生態系や健康への影響について、フィールドを中心としたマクロな視点とDNA分析や培養を中心としたミクロな視点から解明しています。農業地域からのプラスチック流出に着目し、環境先進都市“亀岡”の市民を巻き込んだ汚染問題解決を図ります。

[博士課程前期(2年)]

バイオ環境を実現するためのリーダーとして活躍できる バイオ環境技術者・研究者を養成します。

生物環境科学と応用生命科学を連携させ、人とともに多様な生き物が共生できる環境（バイオ環境）の実現を目指すという教育理念に基づき、博士課程前期では「生物環境科学領域」「応用生命科学領域」の研究分野科目と2分野の関連科目が複合的に履修されるように構成されています。これらにより、「バイオ環境」の視点から複眼的思考ができるバイオ環境技術者・研究者を養成します。



めざすキャリア

高度なバイオ環境技術者・研究者

- | | | |
|----------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ バイオ関連企業 | ☐ 食品関連企業 | ☐ 公務員 |
| ☐ 環境関連企業 | ☐ 農業関連企業 | ☐ 博士課程後期進学 |

中・高等学校教育の担い手

- | |
|---|
| ☐ 中学校教諭(専修免許状・理科) |
| ☐ 高等学校教諭(専修免許状・理科) |

[博士課程後期(3年)]

バイオ環境を実現するためのリーダーとして活躍できる より高度なバイオ環境研究者・技術者を養成します。

生物環境科学と応用生命科学を連携させ、人とともに多様な生き物が共生できる環境（バイオ環境）の実現を目指すという教育理念に基づき、博士課程後期では複眼的研究をさらに研究を深化・高度化させ、「バイオ環境」の新しい研究領域を開拓できる、企業の研究所やベンチャー企業でも、即戦力として先端的な研究や技術開発に取り組める、より高度なバイオ環境研究者・技術者を養成します。

めざすキャリア

より高度なバイオ環境研究者・技術者

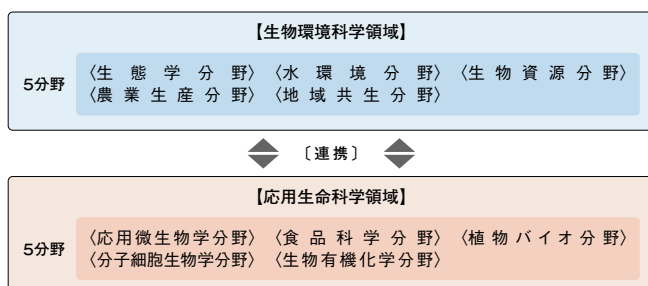
- | | | |
|----------------------------------|---------------------------------|------------------------------|
| ☐ バイオ関連企業 | ☐ 食品関係企業 | ☐ 公務員 |
| ☐ 環境関連企業 | ☐ 農業関連企業 | |

◎ 社会人の受入 ◎

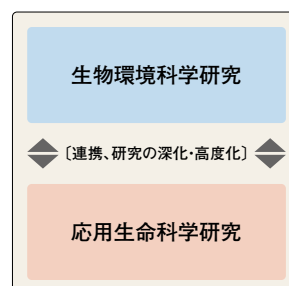
博士課程後期には社会人も受け入れます。ここでの社会人とは、博士課程前期（修士課程）修了者あるいはそれと同等の学力を有する者で、勤務先（所属事業所や企業の長）から同意を得ている者をいいます。社会人としての専業と両立できるように、週末や休暇期間を使った指導を行い、また、日常的には電子メールなどを活用した指導を行います。社会人の経歴を勘案して、試験の一部を免除することがあります。

バイオ環境の実現を目指すべく、より高度な専門性を身に付けた人材を養成します。

【博士課程前期】【バイオ環境専攻】高度なバイオ環境技術者・研究者の養成



【博士課程後期】より高度なバイオ環境研究者・技術者の養成



CURRICULUM

カリキュラム

■博士課程前期

研究分野 関連科目	【演習科目】 ☐ 博士課程前期特別演習I～IV	【特別研究】 ☐ 博士課程前期特別研究
	※各研究室の関連分野に関する演習を「特別演習」、課題研究自体を「特別研究」として単位化しています。	
科学プレゼンテーション	【演習科目】 ☐ 科学プレゼンテーション演習I～II	

専門基礎科目	☐ 分子生命科学特論 ☐ 生物機能開発特論 ☐ 環境再生特論	☐ 生物資源特論 ☐ 農業生産特論 ☐ 食品科学特論
関連科目	☐ 生命科学最先端技術特論 ☐ 環境デザイン最先端技術特論 ☐ 食資源開発最先端技術特論 ☐ インターンシップ A、B	

■博士課程後期

☐ 博士課程後期特別演習I～VI	☐ 博士課程後期特別研究
※系統的なカリキュラムを特に設定せず、「特別演習」と「特別研究」を単位化することとどめ、各自の研究に専念していただきます。	

ADMISSION POLICY

求める人物像

■博士課程前期

1. 自然環境と科学の関わりや、農業のあり方に興味をもち、持続可能な地球環境と地域社会を構築していくための研究や産業に意欲をもって携わりたい者。
2. 最先端の生命科学、バイオ技術に強い関心を持ち、生命の成り立ちの解明、人類の健康や豊かな食のための研究や産業に意欲をもって携わりたい者。

■博士課程後期

生物環境科学研究と応用生命科学研究のより積極的な連携や複眼的研究をさらに進めて、「バイオ環境」というコンセプトでの新しい研究領域の模索をおこない、新しい環境・生命技術の創成をおこなおうとする者。

FACULTY

教員紹介

生物環境科学領域

生態学分野

大西 信弘 教授 博士(理学) 専門分野 動物生態学、地域研究 【著書】保津の漁労「京の筏 コモンズとしての保津川」(ナカニシヤ出版, pp. 63-76, 2016) 【論文】インドアルナチャール・ブラデーシュ州、ウエスト・カメルン県およびタワン県の鳥類相。ヒマラヤ学誌, 17, 113-119 (2016) アジアの稲作圏の農地生態系は、多様な野生生物の生息環境でもある。アジアの農地生態系に学び、身近な環境で生物多様性との共生を目指す。	丹羽 英之 教授 博士(地球環境学) 専門分野 景観生態学、保全生態学、植生学 【著書】「景観生態学」(共立出版, 2022) 【論文】Niwa, H., & Kanaya, T. (2024). Distribution analysis of adult and larval Calopteryx japonica using unmanned aerial vehicle acquired water temperature distribution. River Research and Applications, 40(4), 627-640. 景観生態学をベースに自然環境を評価しマッピングしている。ドローンを使った新しい評価技術の開発にも取り組んでいる。	大秦 正揚 講師 博士(農学) 専門分野 昆虫生態学、動物行動学、応用昆虫学 【論文】Host plant choice determined by reproductive interference between closely related butterflies. The American Naturalist 196: 512-523. (2020) 昆虫を中心に、生物の環境への適応や繁殖行動の研究を行っている。
--	---	---

水環境分野

高澤 伸江 准教授 博士(理学) 専門分野 化学海洋学、生物地球化学 【著書】「南極・北極の百科事典」国立極地研究所編 (丸善, 2004) 【論文】Kasamatsu, N., S. Kawaguchi, S. Watanabe, T. Odate, and M. Fukuchi, Possible impacts of zooplankton grazing on dimethylsulfide production in the Antarctic Ocean. Can. J. Fish. Aquat. Sci., 61(5), 736-743 (2004) 河川・湖沼・海洋など様々な水環境を対象として、人間活動が水環境に及ぼす影響や、水質変化や気候変化が生物群集に与える影響について研究を行っている。	ウオン ヤン ジエ WONG Yong Jie 講師 PhD (Environmental Engineering) 専門分野 Regional Climate Change・Artificial Intelligence・IoT System Journal Papers (First/Corresponding Author)- Peer Reviewed 1. Hussein, E.E., Derdour, A., Zerouali, B., Almaliki, A., Wong, Y.J., Ballesta-de los Santos, M., Minh Ngoc, P., Hashim, M.A., & Elbeltagi, A. (2024). Groundwater quality assessment and irrigation water quality index prediction using machine learning algorithms. Water, 16, 264. The global frequency of hydrometeorological and atmospheric disasters is sharply increasing. However, in most developing countries, as both the quantity and quality of environmental data are lacking due to insufficient monitoring stations, making it harder to track and predict these disasters. To tackle this issue, our laboratory employs an integrated approach, utilizing remote sensing technology, GIS, AI, big data analysis, along with IoT and cost-effective sensors. Through this comprehensive strategy, we aim to establish a robust "Sustainable Environmental Management Framework."	永野 真理子 講師 博士(学術) 専門分野 Aquatic ecology Nagano, M., Sakamoto, M., Chang, K. H., & Doi, H. (2023). Predator-induced plasticity in relation to prey body size: A meta-analysis of Daphnia experiments. Freshwater Biology, 68(8), 1293-1302. Elucidation of seasonal changes in plankton communities in freshwater areas such as lakes and rice paddies. Understanding of biota using environmental DNA, and phenotypic plasticity through interactions between prey-predator.
--	---	---

生物資源分野

鈴木 玲治 教授 博士(地域研究)		藤井 康代 教授 博士(農学)		ニエイン チャン NYEIN Chan 講師 PhD(Area Studies)	
専門分野 森林環境学、土壌学、地域情報学		専門分野 林産学		専門分野 Ecology and Environment	
[論文]Effect of slash-and-burn on nutrient dynamics during the intercropping period of taungya teak reforestation in the Bago Mountains, Myanmar. <i>Tropical Agriculture and Development</i> ,53,82-89 (2009)		[論文]『採卵鶏飼料としての竹粉および自家発酵竹粉の有用性』Bamboo J., 29, 29-35 (2015)		Assessing the Impacts of Dam Construction on the Livelihoods of Swidden Farmers in Pinlaung, Southern Shan State, Myanmar. <i>Human Ecology</i> , 52(1), Apr, 2024.	
東南アジアや日本の農山村において、生物資源の持続的利用を可能としてきた在来知に着目し、森林環境学、土壌学、地域情報学の観点から、地域の生態環境に調和した農業や森林利用の将来像を検討。		タケを含む木質バイオマスについて、化学的手法による材料利用や生理的現象の解明を行うことで資源の有効活用、資源の持続的な供給を伴うバイオ環境の実現を目指している。		My research focuses on sustainable forest resource management by and for local communities.	

農業生産分野

船附 秀行 教授 博士(農学)		佐藤 隆徳 教授 博士(農学)		エムディー アサデュザマン Md ASADUZZAMAN 准教授 PhD in Bioproduction Science	
専門分野 遺伝育種学、作物生理学		専門分野 蔬菜園芸学、育種学(野菜)		専門分野 Greenhouse Horticulture, Hydropoics and Soilless culture, Specialty Crop Production, Autotoxicity in Recyled Hydroponics	
[著書]『Biotechnology in Agriculture and Forestry Vol.38』(Springer,1996、分担執筆) [論文]Molecular basis of a shattering resistance boosting global dissemination of soybean. PNAS, 111:177797-802(2014)		[著書]『新編 野菜園芸ハンドブック』(養賢堂,2001、分担執筆) [論文]Development of the Parthenocarpic Eggplant Cultivar 'Anominori'. Japan Agricultural Research Quarterly (JARQ), 43, 123-127 (2009)		[Book]Controlled Environment Agriculture- Production of specialty crops providing human health benefits through hydroponics. ISBN: 978-1-63484-517-5, March, 2016. NOVA Sci. Pub., NY, USA. [Paper]Production of low-potassium content melon through hydroponic nutrient management using perlite substrate. Front. Plant Sci. 9: 1382.	
穀類、豆類などの作物の生産性や品質に関連した形質の遺伝解析や特性解明、有用品種育成のための技術開発に取り組む。		地域特産物となり得る高付加価値な野菜の品種育成と特性解明、さらに環境に配慮した持続可能な栽培技術の開発に取り組む。		Quality Improvement of Horticultural Crops through Hydroponics and Soilless Culture Under Greenhouse and Controlled Environment Agriculture	

坊 安恵 准教授 博士(農学)	
専門分野 農業経営学	
[論文]「新型コロナウイルス拡大による農泊事業への影響と課題」農業経済研究 95 (3) ,165-170 (2023)	
農林漁村での地域の取組を通して、農業経営学の観点から地域活性化について研究を行っている。	

地域共生分野

この分野は、領域内の複数分野にまたがるため、各部分の教員が担当します。

環境物理学分野(旧カリキュラム)

伊東 和彦 准教授 博士(理学)	
専門分野	地球内部物理学、固体物性、結晶合成
[論文]Simple practical processing of a large single crystal from a large amount of a complete stoichiometric mixture in two-component system. <i>J. Cryst. Growth</i> , 271, 398-402(2004)	
酸化物の中で特にケイ酸塩を中心とした大型単結晶の合成とその物性の解析を行っている。これらの固体物性の理解はエネルギー環境に配慮した高効率素子の開発を可能にする。	

応用生命科学領域

応用微生物学分野

萩下 大郎 教授 博士(農学)		櫻間 晴子 准教授 博士(農学)	
専門分野 応用微生物学、産業微生物学		専門分野 応用微生物学、酵素化学、構造生物化学	
[論文]Breeding of a cyclic imide-assimilating bacterium, <i>Pseudomonas putida</i> s52, for high efficiency production of pyruvate. <i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> ,77,1650-1654 (2013)		[論文]1,3-1,4- α -L-fucosynthase that specifically introduces Lewis a/x antigens into type-1/2 chains. <i>J. Biol. Chem.</i> 287, 16709-16719 (2012)	
独自性の高い産業技術の開発に向けた新規微生物の探索と基礎的・応用的な面から酵素化学的な微生物機能の解明に取り組んでいる。		微生物スクリーニング法により汚染物質の除去に有用な酵素を探索し、タンパク質工学的手法によりその酵素の機能改変を行うことで、それらを活用した環境調和型浄化技術の開発を目指している。	

井口 博之 准教授 博士(農学)	
専門分野 応用微生物学、環境微生物学	
[論文]Microbial characterization of the Japanese traditional pickle senmaizuke produced by two different manufacturing processes. <i>Food Sci. Nutr.</i> , 9,4452-4460 (2021)	
植物と共生する微生物や、日本の伝統的な発酵食品に関わる微生物ついて遺伝子工学・分子生物学技術を用いて研究し、微生物生態の理解深化および発酵醸造・作物栽培への応用利用を目指している。	

シュインキン Zhu Yunxin 講師 博士(生物工学)	
専門分野 応用生物化学、バイオ機能応用、バイオペロセス工学、環境負荷低減技術	
1)Significance of homogeneous operation in light-assisted fixed-bed bioprocess under ammonia stress: Optimization, long-term operation and metagenomic analysis. <i>Bioresour. Technol.</i> 399 (2024): 130568. 2)Why do anaerobes like the light stimulation: Enhanced anaerobic digestion at different wavelengths under ammonia stress. <i>Chem. Eng. J.</i> 483 (2024): 149266. 3)Light triggers green recovery: Boosted biomethane production from ammonia-stressed anaerobic digestion through optimized illuminated bioreactor. <i>Chem. Eng. J.</i> 450 (2022): 138173. 4)Photon number based anaerobic digestion process for efficient bio-methane conversion from ammonium-rich feedstock: Performance evaluation and practical potential. <i>Energy Convers. Manag.</i> , 238 (2021): 114155.	
バイオエネルギー産生促進のための嫌気性光照射バイオペロセスの構築、関連メカニズムの解明、実環境の適応評価などについて研究する。	

食品科学分野

矢野 善久 教授 理学博士	藤田 裕之 教授 農学博士	四日 洋和 講師 博士(工学)
専門分野 生化学、食品栄養科学	専門分野 食品化学、生化学、薬理学	専門分野 食品工学
[著書]『ビタミンE研究の進歩』(ビタミンE研究会編,共立出版,1994) [論文]LIS1 and NDEL1 coordinate the plus-end-directed transport of cytoplasmic dynein. <i>EMBO J.</i> ,27,2471-2483 (2008)	[著書]Marine nutraceuticals and functional foods, CRC press(2008) [論文]Efficacy and safety chinese black tea (Pu- Erh) extract in healthy and hypercholesterolemic subjects. <i>Ann. Nutr. Metab.</i> , 53, 33-42 (2008)	[論文]A simple method for determining the flaxseed or fish oil content in microcapsules prepared by spray drying. <i>Jpn. J. Food Eng.</i> ,15 (3) ,131-139 (2014)
食品に含まれる機能成分、特に生活習慣病に対し予防や改善効果を持つ成分の探索法の開発とその成分の生理機能解析。	食品中には、未知の体調調節機能を持つ物質が多く存在している。その中でも特にメタボリックシンドロームを中心に改善作用を示す食品を探索し、その活性成分の単離・構造決定、さらには構造活性相関にも取り組む。	食品のおいしさ、香り、色、機能性を物理化学的視点から評価解析し、現在社会の多様なニーズに応える高機能食品の開発に貢献する。

植物バイオ分野

高瀬 尚文 教授 博士(理学)	三村 徹郎 教授 理学博士
専門分野 植物細胞工学、植物デザイン学	専門分野 植物環境生理学、植物細胞生物学
[論文]The improvement and enhancement of phyto-ingredients using new technology of genetic recombination. In <i>Biotechnology in Functional Foods and Nutraceuticals</i> . Eds. D.Bagchi,F.C.Lau,D.K.Ghosh,CRC Press,pp157-180 (2010)	[著書]「基礎生物学シリーズ7 植物生理学 第2版」(三村徹郎、深城英弘、鶴見誠二編)化学同人(2019) [論文]Cell-specific localization of alkaloids in <i>Catharanthus roseus</i> stem tissue measured with Imaging MS and Single cell MS. <i>PNAS Nexus</i> 113, 3891-3896 (2016)
有限な地球における人類の活動と生存の持続を目的に、物質循環の流れを踏まえ、植物の機能を巧みに利用したバイオテクノロジーの研究開発に取り組んでいる。	
ラファエル プリエト Rafael PRIETO 准教授 博士(理学)	遠藤 暁詩 准教授 博士(理学)
専門分野 植物分子遺伝学、分子植物生理学	専門分野 植物構造学、植物分子生理学
[論文]Characterization of γ -glutamyltransferase- and phytochelatin synthase-mediated catabolism of glutathione and glutathione S-conjugates in <i>Arabidopsis thaliana</i> . <i>Plant Biotech.</i> , 39, 381-389 (2022).	[論文]A cell-wall-modifying gene-dependent CLE26 peptide signaling confers drought resistance in <i>Arabidopsis</i> . <i>PNAS Nexus</i> 3, pgae049 (2024).
植物における環境ストレスへの適応、ファイトレメディエーション、栄養代謝、オーキシンやブラシノステロイドなどの植物ホルモンの調節機構などについて研究する。	植物が細胞壁を介して環境応答を調節する仕組みを明らかにする。得られた知見を基に、今後の環境変動に適した植物を作出する。また一方で、将来の細胞壁バイオマス利用に資するような、細胞壁改変技術を開発する。

分子細胞生物学分野

寶関 淳 教授 博士(理学)	奥 公秀 准教授 博士(農学)	ニコラ プレヴォ Nicolas PREVOST 准教授 薬理学博士
専門分野 細胞生物学、分子生物学、生化学、タンパク質科学	専門分野 分子生物学、細胞生物学、応用微生物学	専門分野 免疫学
[論文]Homeostasis of the ER redox state subsequent to proteasome inhibition. <i>Sci. Rep.</i> 11, 8655 (2021).	[著書]「オートファジー分子メカニズムの理解から病態の解明まで」南山堂 82-89 (2018) [論文]Evidence for ESCRT- and clathrin-dependent microautophagy. <i>J. Cell Biol.</i> ,216,3263-3274(2017)	Elaib Z, Adam F, Berrou E, Bordet JC, Prévost N, Bohe R, Bryckaert M, Rosa JP. Full activation of mouse platelets requires an ADP secretion pathway regulated by SERCA3 ATPase-dependent calcium stores. (2016) <i>Blood</i> 128:1129-1138.
神経変性疾患をはじめとする様々な疾患発症の原因となる細胞内タンパク質代謝の破綻とレドックス異常が互いにどのように関わっているのかをオルガネラレベルで解析し、その機構を解明する。	細胞レベルでの健康を維持するために、細胞内で物質を分解リサイクルする仕組み、その中でも特にオートファジーとよばれる機構を、酵母や哺乳類培養細胞を用いて研究している。	研究テーマ： ・免疫血栓症および血栓性微小血管症。 ・免疫血栓症および線維症。 ・免疫血栓症、グリコシル化、および癌。 ・免疫血栓症およびアルツハイマー病。

生物有機化学分野

清水 伸泰 教授 博士(農学)	ヴェルマ ラジブ कुमार VERMA Rajiv Kumar 准教授 Doctor of Philosophy (Chemistry)
専門分野 天然物有機化学、化学生態学、有機合成化学	専門分野 Organic Synthesis, Biorganic Chemistry
[論文]Biosynthetic pathway of aliphatic formates via a Baeyer-Villiger oxidation in mechanism present in astigmatid mites. <i>PNAS</i> , 114, 2616-2621 (2017)	Synthesis and photophysical properties of fluorescence molecular probe for turn-ON-type detection of cytosine bulge DNA. <i>Organic Letters</i> , 2016, 18, 3170-3173.
土壌動物や昆虫が出すにおいを分析し、その化学構造やどのような行動に関わるのかを明らかにする。体内での生成機構を解明する基礎研究を遂行する一方、より発展的に新しい機能の応用を目指す。	Synthesis of functional molecular probes to elucidate cellular mechanisms. Synthesis of heterocyclic compounds as potential drug candidates; Developing multicomponent reactions.
森山 太介 嘱託講師 博士(バイオ環境)	
専門分野 化学生態学	
[論文]Does the orchid <i>Luisia teres</i> attract its male chafer pollinators (Scarabaeidae: Protactia pryeri pryeri) by sexual deception?	
節足動物や植物がもつ情報化学物質を特定し、生物現象と化学物質の関連を明らかにする。	

工学研究科

Graduate School of Engineering

京都太秦キャンパス

博士課程前期／博士課程後期 機械電気システム工学専攻

次世代の電気機械システムに必須の高度な専門知識を修得し、新しい発想で産業にイノベーションをもたらして新たな価値を生み出すことができる高度専門技術者・研究者の育成を目指します。博士課程後期では、社会的な課題を解決に導いていく問題発見・解決能力の育成にも力を注ぎます。

めざすこと

グローバルで高度な専門知識を有した技術者・研究者を育成します。



自分自身の成長の設計者たれ

大学院での研究は自由と積極性を伴うものです。それは、探索し、革新的であり、失敗したとしても学びの道を進み、あなた自身のために前向きに工夫をする自由です。そして社会の進歩や向上に自分がいかに貢献できるのかを認識する積極性です。

大学院で学ぶ人は大学を卒業してすぐの人ばかりではなく、自分自身の成長の機会を増やしたい専門家や、特別な才能や興味を持つ人、あるいは単に今まで機会に恵まれなかった人など様々です。個々の自由な研究を基軸としたこのコースでは、その誰もが本気で取り組んでいます。

どのような動機で入学したとしても、本学工学研究科の多分野領域横断的な4つの柱（エネルギー・情報・物質・システム）から構成されるプログラムは、あなたに挑戦を与え、成長をもたらします。一年目は主に私たちが指導をしますが、その後はあなた自身の考えや研究の成果から私たちの方が学ぶことになることを期待しています。

工学研究科長 CASTELLAZZI Alberto

研究内容や教育内容

材 料 肉眼では見えないナノ材料の物性や機能を独自技術で解明する —— 生津資大 教授

数ナノメートルサイズの物体の強度実測や、材料をナノ化することで新たに発現する機能を探究しています。これらを支えるのはマイクロマシンや電子顕微鏡などを融合させた唯一無二の実験技術。世界に誇る独自テクノロジーで目に見えない物体を巧みに操り、次世代の半導体・自動車産業や医療技術に貢献します。

（担当：今井欽之 教授、中村康一 教授、生津資大 教授、堀井滋 教授、松本龍介 教授）



エネルギー スマートモータ技術と発電機技術で環境問題に貢献する —— Fuat KUCUK 講師



電気自動車やドローンに搭載するモータを高効率化することは、化石燃料の消費を減らし、地球温暖化を防ぐことにつながります。私の研究室では、新素材やスマート制御技術を駆使した高効率モータや、再生可能エネルギーによる低コスト発電も可能にする、小型かつ高効率な発電機の開発を目指しています。

（担当：Alberto CASTELLAZZI 教授、岸田逸平 准教授、高橋亮 准教授、Fuat KUCUK 講師）

情 報 脳のストレス異常を測定し睡眠障がいの原因究明に挑む —— LIANG Zilu 准教授

最先端のウェアラブル光脳機能イメージング技術と高度なビッグデータ解析手法を組み合わせることで睡眠中の脳活動を測定、ストレス関連異常を探索しています。目に見えない現象の測定は困難ですが、ストレスが睡眠障かいを引き起こす原因や、治療すべき脳の領域を解明することは、人が健康的に生きるために欠かせません。

（担当：田畑修 教授、川上浩司 教授、Ian PIUMARTA 教授、西正之 准教授、LIANG Zilu 准教授、Martin SERA 講師）



シ ス テ ム オンライン技術をより正確に安全に行うためのロボットを開発 —— Sajid NISAR 准教授



外科医が手術支援ロボットを遠隔操作する「オンライン手術」の普及にむけて、高度なロボット制御を可能にするウェアラブルロボットの研究開発を進めています。手術支援ロボットの扱いを訓練するVR環境や、手術の際に重要かつ今まで導入が難しかった「触覚」を提供するロボットグローブを開発しています。

（担当：沖一雄 教授、福島宏明 教授、Sajid NISAR 准教授、佐藤啓宏 講師、Salem Ibrahim SALEM 講師）

キーワードは“創造”。複数分野を統合するアプローチで、「新たな技術や学問を創り出せる人材」を育成する大学院。

新しい概念を“創造”することによって次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できる高度な専門知識を有した技術者・研究者を育成します。

グローバルに活躍する国際色あふれる教員陣が最先端の研究設備を揃えた研究環境で ORT (On the Research Training) を実施します。また、工学研究科では海外からの留学生の受け入れを積極的に行い、グローバルな環境での学修、研究やコミュニケーションの機会が生まれます。

博士課程 前期

養成する人物像 機械電気システム工学分野を構成する材料、エネルギー、情報、システムのいずれかの領域を中心として、次世代の機械電気システムに必須の専門領域の高度な知識を他領域の知識と関連づけながら修得させることによって次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できる専門技術者及び高度専門技術者を養成します。

博士課程 後期

養成する人物像 機械電気システム工学分野を構成する材料、エネルギー、情報、システムの4領域のうち専門とする1領域を深く学修し、同時に関連する3領域の知識も深化させることで、それぞれの高度な専門的知識に加え、領域横断的な総合領域において高度な専門的知識を深化させ、多様な学問分野の動向と社会ニーズを踏まえた社会的ニーズの高い問題発見能力を有し、新しい概念を“創造”することによって次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できる研究者を養成します。

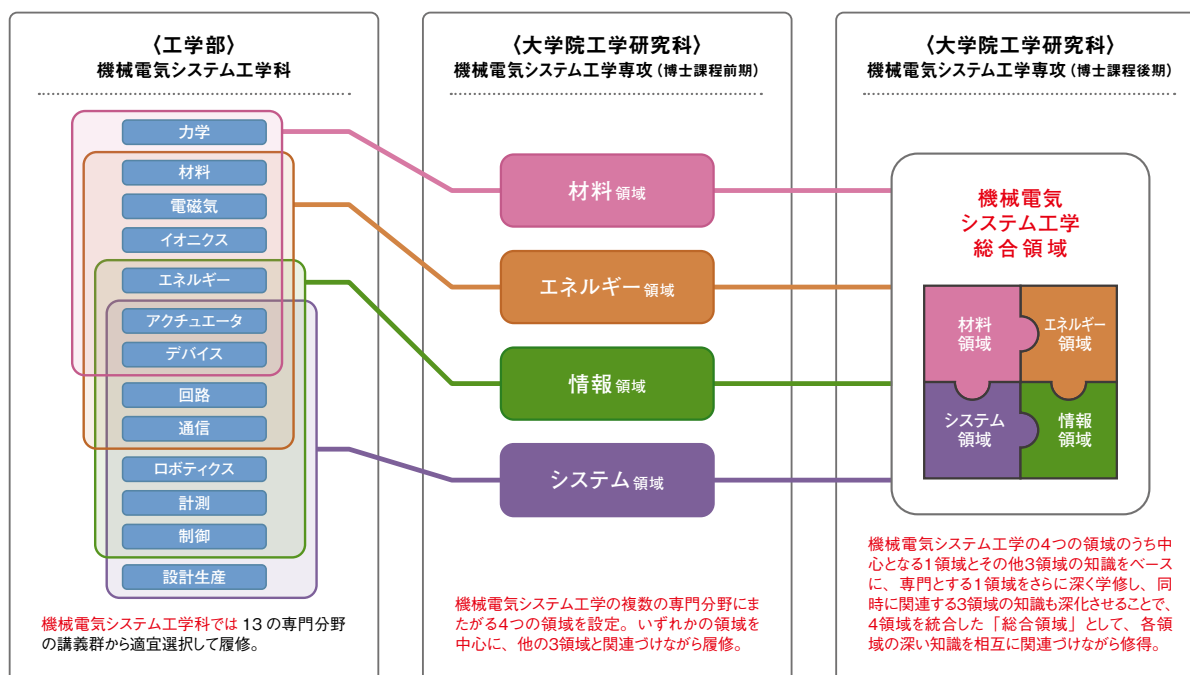
めざすキャリア

- ☐ メーカーの設計・生産・開発・品質管理の各部門の高度専門技術者
- ☐ 研究者

めざすキャリア

- ☐ メーカーにおける研究開発者
- ☐ 大学および高等研究機関における研究者

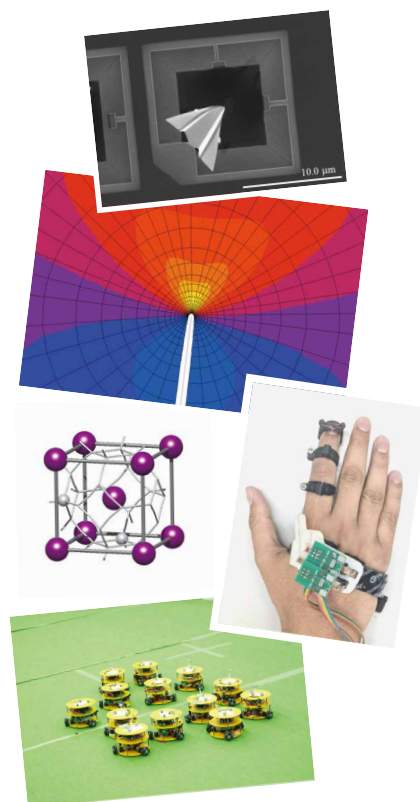
「工学部」と「大学院工学研究科(博士課程前期・後期)」の関係説明図



次世代の電気機械システムに必須の高度な専門知識を修得し、新しい発想で産業にイノベーションをもたらして新たな価値を生み出すことができる高度専門技術者・研究者の育成をめざします。

カリキュラムマップ(博士課程前期)

		教 育 課 程			
セメスタ		1	2	3	4
科目	科学技術英語	科学技術英語I	科学技術英語II		
専門科目(基幹)	材料	先端機械電気システム工学通論			
	材料	エレクトロニクス材料の物理と化学	MEMS 技術と材料		
	エネルギー		風力発電テクノロジー		
	情報	大学院エンジニアのためのコンピュータ数学			
	システム	ロボティクス特論			
専門科目(発展)	材料	計算材料科学特論			
	エネルギー	半導体電力変換技術	半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計		
	情報		スクリプト言語と仮想マシン		
	システム	システム設計論	リモートセンシング		
関係分野		特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV
		特別研究I	特別研究II	特別研究III	特別研究IV



専門科目(基幹)と専門科目(発展)は1年生で履修可能。語学科目は1年生で履修します。
研究分野関係科目は主研究指導教員と副研究指導教員(複数)という研究指導体制をとり、2年間を通じて各自の研究テーマに応じた十分な研究指導を行います。

カリキュラムマップ(博士課程後期)

		教 育 課 程					
セメスタ		1	2	3	4	5	6
科目	科学技術英語	科学技術英語III	科学技術英語IV				
専門科目	材料	機械電気システム工学特論(材料)					
		エレクトロニクス材料の物理と化学	MEMS 技術と材料				
		計算材料科学特論					
	エネルギー	機械電気システム工学特論(エネルギー)	風力発電テクノロジー				
		半導体電力変換技術	半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計				
	情報	大学院エンジニアのためのコンピュータ数学	スクリプト言語と仮想マシン				
			機械電気システム工学特論(情報)				
	システム	システム設計論	リモートセンシング				
		ロボティクス特論	機械電気システム工学特論(システム)				
関係分野		特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV	特別演習V	特別演習VI
		特別研究I	特別研究II	特別研究III	特別研究IV	特別研究V	特別研究VI

専門科目は博士課程前期の科目に加え、機械電気システム工学特論(材料・エネルギー・情報・システム)の4科目を開講します。
研究分野関係科目は主研究指導教員と副研究指導教員(複数)という研究指導体制をとり、3年間を通じて各自の研究テーマに応じた十分な研究指導ができるようにするとともに、主研究指導教員の所属する領域以外の3領域の教員を交えて発表及び討議を行います。

ADMISSION POLICY

求める人物像

【工学研究科 博士課程前期】

本研究科の教育内容を理解した上で、エンジニアとしての能力を高め、課題解決に基本的な工学技術を駆使し、さらに最先端技術を応用できる学部課程卒業生。地球環境に配慮しながら人類社会を豊かにするための課題に主体的に立ち向かい、グローバルに活躍できる素養を持つ者。

1. グローバルな視点で社会の未来に繋がる課題の解決に意欲をもって携わりたい者。
2. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野の基礎的な知識を有している者。
3. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野に科学的・学術的な観点からアプローチし、専門性を深めて課題に挑戦する意欲を有する者。

【工学研究科 博士課程後期】

博士課程前期で培った技術的基盤や研究遂行能力をさらに高め、科学技術体系の総合的な理解や情報の受発信能力を向上していき、課題解決に対してより体系的・多面的な取組を主導できる素養を有する者。

1. グローバルな視点で社会の未来に繋がる課題の解決に意欲をもって携わりたい者。
2. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野の専門的な知識を有する修士またはそれと同等の学力を持つ社会人。
3. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野に科学的・学術的な観点からアプローチし、専門性を深めて、複雑で複合的な問題に挑戦する意欲を有する者。

FACULTY

教員紹介

材料領域

今井 欽之 教授 博士(工学) 専門分野 光制御デバイス (Optoelectronic devices)、光学結晶 (Optical crystals)、誘電体 (Dielectrics)、ホログラフィー (Holography)、機械電気システム工学特論 (エネルギー) 担当科目 機械電気システム工学特論 (材料) 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 著書論文 [著書] 久保田 他 (共著) “ホログラム最新技術～感光材料の開発から実製品への応用まで～”、情報機構、(2006). [論文] T. Imai et al., “Fast response varifocal lenses using $\text{KTa}_{1-x}\text{Nb}_x\text{O}_3$ crystals and a simulation method with electrostrictive calculations,” <i>Appl. Opt.</i>, vol. 51, no. 10, pp. 1532-1539, (2012). など 専門は単結晶を材料とした光制御デバイス、ホログラフィー。単結晶の育成から取り組んでおり、近年は非常に強い電気光学効果を持つ単結晶を用いた、光線を高速に曲げる (走査する) デバイスの開発とその装置応用に重心を置いている。	中村 康一 教授 博士(工学) 専門分野 量子材料科学、量子化学、量子物理学、ナノ材料 担当科目 計算材料科学特論※ 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (材料) 著書論文 [著書] First-principles simulation on thermoelectric properties of transition metal dichalcogenide monolayers, <i>Jpn. J. Appl. Phys.</i> 57, 06HE04 (2018). ほか多数 量子化学的・量子物理学的手法に基づく材料物性 (熱電変換特性、電気機械特性など) や材料反応に関する理論的研究とシミュレーションのほか、相対論的電子状態理論を用いた材料系の応用計算を行っている。	生津 資大 教授 博士(工学) 専門分野 ナノメカニクス、ナノテクノロジー、機能性材料 担当科目 MEMS 技術と材料 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (材料) 著書論文 “Strength of Carbon Nanotubes Depends on Their Chemical Structures”, <i>Nature Communications</i> (2019) ほか 300 件以上 ナノテクノロジーを駆使した独創的な材料研究を推進しています。独自の実験技術を駆使して肉眼で見えない物に触れたり加工したり強度を測ったりして、ナノ～原子サイズの材料の振る舞いを明らかにしていきます。
堀井 滋 教授 博士(工学) 専門分野 磁場を用いた材料プロセス、超伝導工学、酸化物材料物性 担当科目 エレクトロニクス材料の物理と化学 機械電気システム工学特論 (材料) 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 著書論文 [著書] High-Temperature Superconductors. Occurrence, Synthesis and Applications Chapter 6, Nove Science Publisher (2019). [論文] [Achieving higher orientation degrees in Dy123 superconductor through LDT-MRF system] <i>J. Appl. Phys.</i> (2023). [リニア駆動型回転変調磁場発生装置の開発] 粉体および粉末冶金 (2023, 招待) ほか 300 報以上 主に酸化物材料を対象に、磁場配向プロセス開発や材料化に向けた物質設計指針の構築に関わる実験的研究を、電氣的・磁氣的・結晶構造の観点から進めています。	松本 龍介 教授 博士(工学) 専門分野 固体力学、計算力学、材料強度学、原子シミュレーション 担当科目 計算材料科学特論※ 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (材料) 著書論文 [著書] “Atomistic Simulations of Hydrogen Effects on Lattice Defects in Alpha Iron”, <i>Handbook of Mechanics of Materials</i>, Chapter 10, Springer, 2019. [論文] 80 編以上のジャーナル論文を執筆 金属材料の変形と破壊機構や、強度信頼性評価に関する研究を行っている。特に電子・原子レベルのシミュレーション手法を用いて、水素環境での材料強度の劣化 (水素脆化) 機構の解明に取り組んでいる。	足立 伸太郎 講師 博士(理学) 専門分野 物質科学、固体物理、超伝導、強磁場科学、高圧力科学 担当科目 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 著書論文 [論文] S. Adachi et al., “Observation of non-uniform twin microstructures in Dy123 superconductor for magnetic biaxial alignment”, <i>IEEE TAS 32</i> (2022) 7200105. など

エネルギー領域

羽部 哲朗 講師 博士(工学) 専門分野 物性理論、物質中の電子輸送現象及び光学応答、原子層物質・トポロジカル物性 担当科目 特別演習I～VI 特別演習I～VI 先端機械電気システム工学通論 著書論文 [著書] ポストグラフェン材料の創製と用途開発最前線：二次元ナノシートの物性評価、構造解析、合成、成膜プロセス技術、応用展開 (共著 エヌ・ティー・エス 2020)	アルベルト カステッラッツィ Alberto CASTELLAZZI 教授 Ph.D. in Electrical Engineering (ドイツ) 専門分野 パワー半導体、パワーエレクトロニクス 担当科目 半導体電力変換技術 半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (エネルギー) 著書論文 A. Castellazzi, E. Gurpinar, Z. Wang, A. S. Hussein, P. Garcia Fernandez, <i>Impact of Wide-Bandgap Technology on Renewable Energy and Smart-Grid Power Conversion Applications Including Storage</i>, <i>Energies</i> 2019, 12(23), 4462; https://doi.org/10.3390/en12234462 (Invited - Feature paper)
---	---

Wide-bandgap (WBG) semiconductor devices are making their way pivotal domains of societal infrastructure such as sustainable energy generation and conversion. Experience has highlighted a number of gains that can be drawn from this technology even when used as a straightforward drop-in substitute of silicon in established applications. Incremental in nature, these gains enable interesting progress beyond state-of-the-art. With particular reference to renewable energy power conversion and solid-state transformation, in the context of transport applications and incorporating a storage device, this paper reports on the understanding generated over the past years and points out some specific technology and circuit design requirements to ensure overall beneficial impact of the adoption of WBG technology.

岸田 逸平 准教授 博士 (工学)	
専門分野	計算材料科学、電池工学、イオニクス
担当科目	エレクトロニクス材料の物理と化学 計算材料科学特論※特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (エネルギー)
著書論文	The graph-theoretic minimum energy path problem for ionic conduction, AIP Advances, 5 (10), p. 107107 (2015).
「誰かが電池を改善してくれたらいいなあ」とぼんやり眺めて過ごすよりも、自分がその電池を改善して社会に貢献する。そんなことを夢見ている、私は主に電池材料の研究を理論計算を用いて進めている。	

高橋 亮 准教授 博士 (理学)	
専門分野	情報通信工学、電気電子回路、統計物理学
担当科目	半導体電力変換技術 機械電気システム工学特論 (エネルギー) 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論
著書論文	Ryo Takahashi, Keiji Tashiro and Takashi Hikiyara, "Router for Power Packet Distribution Network: Design and Experimental Verification", IEEE Transactions on Smart Grid, vol. 6, no. 2, pp. 618-626, March 2015.
電力ルーティングシステムなど、情報通信システムおよび電気システムを横断し、両システムを連系統合したサイバーフィジカルシステムによる革新的システムおよびその産業応用についての研究を行う。	

Fuat KUCUK 准教授 Ph.D. in Electrical Machines and Power Electronics (トルコ)	
専門分野	電気機械工学、パワーエレクトロニクス、再生可能エネルギー変換、電気自動車
担当科目	風力発電テクノロジー 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (エネルギー)
著書論文	F. Kucuk, E. Sunan, "Performance Analysis of an Alnico-Based Permanent Magnet Reluctance Generator for Wind Energy Conversion System", IEEE Transactions on Electrical and Electronic Engineering, vo.13, no. 9, pp. 1296-1302, 2018.
Wind energy becomes significant source of electricity production in the world. This course provides a thorough introduction to modern wind power generation systems and their control technologies.	

情報領域

田畑 修 教授 博士 (工学)	
専門分野	マイクロ・ナノシステム、センサ、DNA ナノテクノロジー
担当科目	特別研究I～VI
著書論文	センサ、3次元微細加工、薄膜材料機械的物性評価、微小生体模倣システム、DNA ナノテクノロジーなどの分野における英語論文170編、国際学会発表300件、国内口頭発表200件以上。IEEE フェロー、電気学会フェロー。
「小さな機械が創る大きな機会」をスローガンにして、ミリメートルからナノメートルの大きさの構造と機械・電気・化学・光・バイオなどの機能を統合して新しい機械電気システムをつくりだす研究に取り組んでいる。	

川上 浩司 教授 博士 (工学)	
専門分野	システムデザイン、システム工学、人間機械系
担当科目	システム設計論 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (情報)
著書論文	不便から生まれるデザイン (化学同人、2011)、不便益という発想 (インプレス、2017)、不便益 (近代科学社、2017)、アーティファクトデザイン (共立出版、2018)、不便益のスヌメ (岩波、2019)、他多数
システムデザイン論。人工的にシステム(モノやコト)をデザインする(創り出す)ときの指針を探索する。人とシステムが環境を含めて「共生」する状態にするための指針として「不便益」の実現を据える。	

Ian PIUMARTA 教授 Ph.D. in Computer Science (イギリス)	
専門分野	コンピューターサイエンス
担当科目	大学院エンジニアのためのコンピュータ数学 スクリプト言語と仮想マシン 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (情報)
著書論文	Ian Plumarta. <i>Open, extensible composition models</i> . In Proceedings of the 1st Workshop on Free Composition (FREECO) 2011
Configurable and meta-programmable systems that observe and analyse themselves or modify their own implementations.	

西 正之 准教授 博士 (工学)	
専門分野	無機材料化学、ナノ材料、光学特性
担当科目	エレクトロニクス材料の物理と化学 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (情報)
著書論文	【論文】 "Nanoscale Raman imaging with nanogold-topped AFM probes fabricated by area-selective electroless deposition," <i>J. Electrochem. Soc.</i> , 165, D711 (2018); "Focused-ion-beam-enabled electroless growth of gold nanoparticles on silicon," <i>J. Ceram. Soc. Jpn.</i> , 126, 614 (2018).
個々のナノ材料、あるいはもっと大きな材料のナノ領域がどのような物質・化学結合状態からなっているのか、そしてそれが空間的にどのように分布しているのかを知るための顕微分光法に関わる探針をオリジナルの技術でベースに作製しています。	

LIANG Zilu 准教授 博士 (工学)	
専門分野	ウェアラブルコンピューティング、ユビキタスコンピューティング、健康情報学、応用健康科学
担当科目	特別演習I～IV 特別研究I～IV 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (情報)
著書論文	Liang Z, Ploderer B. (2020) "How does Fitbit measure brainwaves": a qualitative study into the credibility of sleep-tracking technologies. PACM on Interactive, Mobile, Wearable and Ubiquitous Technologies (IMWUT) 4(1):Article 17. ほか多数
人をもっと健康的でイキイキと生きるためのウェアラブルコンピューティングと情報処理技術の研究に取り組んでいる。データ解析、人間とコンピュータのインタラクションなど幅広い学際的な研究課題に挑戦している。	

Martin SERA 講師 Ph.D. in Mathematics (ドイツ)	
専門分野	数学、数理科学
担当科目	特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (情報)
著書論文	Chern forms of hermitian metrics with analytic singularities on vector bundles, joint with R. Lärkäng, H. Raufi & E. Wulcan, Indiana Univ. Math. J. 71 (2022), no. 1, 153-189 Chern classes of singular metrics on vector bundles, joint with R. Lärkäng, H. Raufi & J. Ruppenthal, Advances in Mathematics 326 (2018) 465-489 A generalization of Takegoshi's relative vanishing theorem, Journal of Geometric Analysis 26 (2016) no. 3, 1891-1912
His research interest is in the field of complex geometry. Using L ² -theory and coherent sheaves, he analysed the geometry of singular complex spaces. Recently, he studies singular Hermitian metrics on vector bundles.	

システム領域

沖 一雄 教授 博士 (都市・地域計画学)	
専門分野	リモートセンシング、ドローン計測、データ解析
担当科目	リモートセンシング 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (システム)
著書論文	K. Oki, Noda, K., Yoshida, K., Azechi, I., Maki M., Honma, K., Hongo C. and Shirakawa, H., Development of an Environmentally Advanced Basin Model in Asia, [Crop production] (Aakash Goyal, ed.), INTECH. 17-48 (2013) DOI:10.5772/54926 【論文】 K. Oki, H.Oguma, and M. Sugita, Subpixel Classification of Alder Trees using Multitemporal Landsat Thematic Mapper Imagery, PE& RS, Vol.68, No.1, pp.77-82 (2002).
ドローンや人工衛星などのリモートセンシング技術によって観測されたビッグデータから付加価値情報を抽出するための手法開発をおこなっている。また、他分野との連携によるイノベーション創出に興味がある。	

福島 宏明 教授 博士 (情報学)	
専門分野	制御工学、ロボティクス
担当科目	ロボティクス特論 機械電気システム工学特論 (システム) 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論
著書論文	【論文】 Leader-Follower Navigation in Obstacle Environments While Preserving Connectivity Without Data Transmission, IEEE Transactions on Control Systems Technology, Vol. 26, No. 4, 2018. ほか。
群ロボットシステムやヘビ型ロボットなどの複雑で自由度の高いダイナミクスもつシステムを対象とし、環境の変化にも柔軟に対応できる制御手法の構築を目指して研究に取り組んでいる。	

Sajid NISAR 准教授 Ph.D in Engineering	
専門分野	ロボット工学、機械デザイン 医療やモビリティアプリケーションの触覚学
担当科目	特別演習I～VI 特別研究I～VI 機械電気システム工学特論 (システム) 先端機械電気システム工学通論
著書論文	1.Telesurgical Robotics - Encyclopedia of Information Science and Technology, Third Edition, IGI Global, Joint authorship (Sajid Nisar and Osman Hasan) 2.Telesurgical Robotics and a Kinematic Perspective - Encyclopedia of Information Science and Technology, Fourth Edition, IGI Global, Joint authorship (Sajid Nisar and Osman Hasan)

佐藤 啓宏 講師 博士 (工学)	
専門分野	ロボティクス、VR/MR、コンピュータビジョン
担当科目	ロボティクス特論 特別演習I～VI 特別研究I～VI 先端機械電気システム工学通論 機械電気システム工学特論 (システム)
著書論文	“VR/MR ガイドツアーシステムの開発と運用” 日本 VR 学会、19. 2. 247-254、2014. “タングルトポロジーを用いたロボットハンドによる人間の持ち替え動作の模倣” 日本ロボット学会誌、33. 7. 514-523、2015. 共著等
コンピュータビジョンやVR/MRを使ってアームロボットや車両型ロボットを遠隔制御や自動制御で動かす。最近の興味は、ロボットが自律的に視覚を制御して必要な情報を自動で取得する能動視覚にある。	

Amit BANERJEE 准教授 PhD in Physics (インド)	
専門分野	ナノ電気機械システム、微細加工技術、センサ、人工知能
担当科目	MEMS技術と材料 特別演習I～VI 特別研究I～VI
著書論文	Yu et al., Achieving Ultrawide Tunability in Monolithically Fabricated Si Nanoresonator Devices, Nano Letters 23, 11517-11525 (2023); Banerjee et al., Ultralarge elastic deformation of nanoscale diamond, Science 360, 300-302 (2018)
Dr. Amit Banerjee is interested in nanotechnology research, particularly in developing nano-electromechanical systems for ultrasensitive sensing and information processing applications.	

健康科学研究科^{(仮称)*}

Graduate School of Health Sciences

※ 2026年4月開設予定(設置認可申請中)
内容は予定であり、今後変更になる場合があります。

健康医療学専攻^{(仮称)*}「看護学コース^{(仮称)*}」「言語聴覚学コース^{(仮称)*}」 修士課程

Division of Health and Medical Sciences / Nursing Course, Speech-language-hearing Course

健康スポーツ学専攻^{(仮称)*} 修士課程

Division of Health and Sport Studies

近年、少子高齢化社会の進展や医療技術の高度化、健康生活に対するニーズの多様化などに伴い、健康や医療・福祉に関わる専門的人材への社会的要請が高まっています。こうした社会の要請に応えるために、健康科学研究科では疾病や障がいから健康への回復、運動による健康の維持・増進とスポーツを通じたウェルビーイング(幸福)の実現を目指し、人々の健康を科学的に探究・追究します。本研究科には「健康医療学専攻」と「健康スポーツ学専攻」の2つの専攻があり、前者は「看護学コース」と「言語聴覚学コース」の2つのコースから構成されています。健康科学研究科は、人々の健康の維持・増進を支援する高度専門職業人や、さまざまな健康領域の研究・教育に貢献するリーダー人材を育成します。

めざすこと

国民の健康増進に寄与できる高い専門的能力を発揮できる高度専門職業人や教育者・研究者の養成



健康の^{ことわり}理を追究する健康科学

少子高齢化が進む現代、健康に関する課題やニーズはますます高まり、人びとの健康・医療・福祉を担う人材の確保や専門職者の養成は我が国の喫緊の課題となっています。ヒトは齢とともに老化し、身体機能・認知機能の低下や様々な疾病・障がいを伴い易くなります。この避けられない老化をくい止めるにはどのような取り組みが必要でしょうか。老化は運動で防げるって本当でしょうか。運動が健康の維持・増進に良いと考えられるのはなぜでしょうか。また、疾病や障がいを抱えた人びとにとって健康とは何でしょうか。高齢者をはじめ疾病・障がいを抱えた人びとが誰の助けもなく一人で生活するために何が必要でしょうか。このような健康に関するさまざまな疑問や課題に答えるために、健康科学研究科では健康の理を科学的に追究し、健康支援に貢献する人材を育成します。本研究科は看護職者、言語聴覚士や運動・スポーツ関連職者が各々の専門領域での学びを高めながら他の健康職種についての学びを深め、広い視野に立って人びとの健康支援を担えるプロフェッショナルを養成します。健康を深く学び、健康に関する課題の解決に挑戦し、健康社会の実現に貢献しようという志のある諸君、私たちと一緒に健康を追究しましょう。

健康科学研究科長 田中 秀央

研究内容や教育内容

健康医療学専攻

疾病や障がいを有する患者の診断・治療に主眼を置いた生物・医学的な学問ではなく、あらゆる発達段階・健康レベルにある人びとを対象として、その人らしい健康な生活を支援するために、ケア、リハビリテーション、コミュニケーション支援、生活支援を柱とした身体的・心理的・社会的側面を含む全人的医療を目指します。本専攻では特に、これまで本学が培ってきた看護学と言語聴覚学を対象として、看護職と言語聴覚士とがそれぞれの専門性を高めながら他方の分野についても幅広い知識をもち、互いの職種間の連携・協働を実践・推進するための能力を備えて実践の場で指導力を発揮できる高度専門職業人を養成します。



健康スポーツ学専攻

健康スポーツ心理学、生理学、バイオメカニクスなどの基礎的研究分野と、ヘルスプロモーション学、コーチング学、アスレティックトレーニング学などの健康スポーツ現場に関わる実践的研究分野の両面から、健康スポーツを科学的に探究します。また、健康スポーツ学を専門的に幅広く学ぶことで、修士研究では学際的なテーマの研究に取り組むことができます。



健康医療学専攻^(仮称) 修士課程

京都太秦キャンパス

「看護学コース^(仮称)」「言語聴覚学コース^(仮称)」

CONCEPT

コースのコンセプト

看護職と言語聴覚士として各領域の専門的知識と技能を深めるとともに、互いの領域を横断的に学び、包括的な健康支援に寄与する高度専門職業人や研究・教育者を養成します。

- 看護学コースでは、看護学の専門領域の研究の基礎となる理論や知識、研究方法を修得し、人間理解を深めた実践能力を養うカリキュラムを編成しています。
- 言語聴覚学コースでは、言語聴覚学ならびに脳科学や認知科学の領域において、子どもから高齢者まで対象者のライフステージに応じた支援力と問題解決力を養うカリキュラムを編成しています。

めざすキャリア

- ☐ 多職種連携を進められる高度専門職業人
- ☐ 大学・研究所などでの教育研究職

ADMISSION POLICY

求める人物像

- ① 学士課程で培われた看護学または言語聴覚学の基礎的知識と技能を備えている者
- ② 看護学または言語聴覚学を探究し高度な専門性を身に付けようという明確な目的意識と情熱を持ち、研究を遂行するための論理的な思考能力を有する者
- ③ 高い倫理観があり、自分の考えを的確に表現できる者
- ④ 視野が広く創造性があり、さまざまな課題や活動に積極的に取り組む意欲をもって他者と良好な関係を築き協働できる者

健康スポーツ学専攻^(仮称) 修士課程

京都亀岡キャンパス

CONCEPT

コースのコンセプト

運動・スポーツを通じた身体機能の維持、健康増進、さらに健康に支えられたウェルビーイング（幸福）実現のために、健康スポーツ学を基礎的分野と実践的分野の両面から科学的に探究します。

近年、運動やスポーツは競技の分野だけでなく、教育、健康増進・疾病予防、地域活性化など様々な分野での役割が増しており、人々のウェルビーイング（幸福）の実現のために重要な役割を担っています。本専攻では現代社会が抱える諸問題に、健康スポーツ学における幅広い専門知識を基盤に基礎的研究と実践的研究の両面からアプローチすることで、問題の解決に向けた新たな知の創出と社会実装を目指します。健康スポーツ分野に関わる社会のそれぞれの立場で、研究と実践を往還できる優れた人材を輩出し、社会の革新的な発展に貢献します。

めざすキャリア

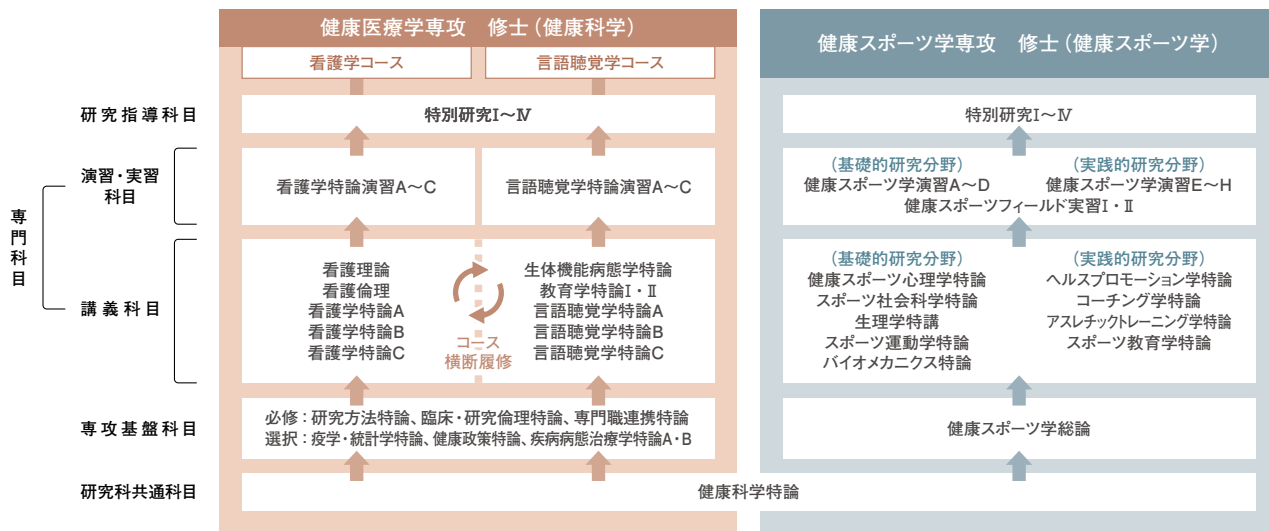
- ☐ 健康・スポーツ関連企業、地方公共団体、プロ・社会人スポーツ団体、健康増進施設、フィットネスクラブなどでの高度専門職
- ☐ 中学・高校などで高度な専門性を有する保健体育の教育職
- ☐ 大学・研究所などでの研究職
- ☐ 更なる研究能力の修得を目指しての博士後期課程への進学

ADMISSION POLICY

求める人物像

- ① 健康スポーツ学、健康科学、体育学、スポーツ科学等を専門分野とする学士課程を卒業した者、又は医療施設、健康増進施設、福祉施設、行政機関などの健康の維持・増進の現場、又はスポーツ関連企業・団体などのスポーツの現場での実践等を通して、健康やスポーツに関する知見および知識を有している者
- ② 学士課程での様々な学びを活かし、学問領域横断的な諸問題の解決に有用な健康スポーツ学の先端知識と研究・分析力の修得を目指す者
- ③ 健康スポーツ学に関する高度な専門性を身に付けて、社会の様々な分野で活躍する高度専門職業人を目指す者

「研究科共通科目」では、必修科目として健康科学の研究に必要不可欠となる「健康科学特論」を学びます。「専攻基盤科目」では、各専攻の専門的領域を横断的かつ俯瞰的に捉えることに加え、専門科目をより深く学ぶための基盤を築くことを狙いとして、各コースや各分野での学修・研究に必要な基本的概念や研究方法などを学びます。「専門科目」では自身の専攻およびコースの専門性を高めるための理論的基盤を涵養する「講義科目」と理論を実践や臨床現場および研究に繋げる「演習科目」を配置しています。この中で健康医療学専攻では看護学と言語聴覚学の各コース科目のうち、互いに他のコースの科目を3科目修得することにより、コース横断的な知識を修得し、研究を深めます。また、健康スポーツ学専攻においては、広く教育現場、スポーツ実践現場、スポーツ産業等における実践的な学びを涵養する目的として「実習科目」を配置しています。「専門科目」では、学修を通じて今後研究を進めるためのテーマ領域の知識の深化とテーマ領域における研究手法やデザイン、分析手法などへの理解を深め、特別研究に繋げていきます。また、各学生の研究テーマ領域以外の科目を履修することで、専攻における異なる分野への相互理解を深め、さらに分野横断的かつ多面的な視点を得ることを通して、包括的な問題解決能力を涵養することを目指すカリキュラムになっています。



健康医療学専攻「看護学コース」

薦田 理佳 教授 博士(保健学)・看護師	
専門分野	成人看護学、クリティカルケア看護学
担当科目	研究方法特論 専門職連携特論 看護理論 看護倫理 看護学特論 看護学特論演習 特別研究
著書論文	上記分野の研究論文多数 (research map をご参照ください)
臨床で感じた疑問を探究することによって、新たな知見として未来の看護を生み出し、人々のより高い QOL の実現につなげることを目指します。	

今西 誠子 教授 博士(看護学)・看護師	
専門分野	小児看護学、看護倫理
担当科目	看護学特論 看護学特論演習 看護理論 看護倫理 研究方法特論 特別研究
著書論文	母性・小児看護ぜんぶガイド 第3版 共著 照林社 2024. 他 候費的処置体験からの子どもの心理的回復を促進するための看護援助, 日本小児看護学会誌 28, 132-138. (2019). The Existence of Experience and Frequency and Severity of Related Concerns of Ethical Issues in Nursing Practice Encountered in Organ Transplantation (2014). Transplantation Proceedings 46, 1029 ~ 1031. 他
未来の人である子どもたちが、「その子らしく」「自分らしく」成長発達し、生きていけるための支援をめざし、最善の利益を大切に、子どもと家族への支援方法や看護師への支援方法を研究しています。	

温井 祥子 教授 博士(看護学) 看護師・助産師	
専門分野	母性看護学
担当科目	研究方法特論 看護理論 看護倫理 看護学特論 看護学特論演習 特別研究
著書論文	【論文】 Knowledge and attitude with regard to non-invasive prenatal testing among pregnant Japanese women. Acta Medica Okayama, 69(3), 155-163 (2015)
女性やカップルがより前向きに妊娠・出産の機会を捉えられること、さらに女性や将来の家族がより健康な生活を送れるようにすることを目指して研究を行っています。	

尾崎 悦子 教授 博士(医学) 管理栄養士・衛生検査技師	
専門分野	公衆衛生学・疫学、栄養学
担当科目	健康科学特論 研究方法特論 疫学・統計学特論 特別研究
著書論文	上記分野の研究論文多数 (research map をご参照ください)
10 万人以上の人々の健康状況を 30 年にわたって追跡する研究に従事しています。どのような人がどのような環境の下でどのような病気になりやすいかを解明することを目指しています。	

古倉 聡 教授 医学博士・医師	
専門分野	がん病態生理学、消化器内科学、がん免疫治療学
担当科目	健康科学特論 研究方法特論 疾病病態治療学特論 特別研究
著書論文	上記分野の研究論文多数 (research map をご参照ください)
これまでは、老化は自然現象と捉えており、その結果いづれ老衰で死に至ると考えられていましたが、最近「老化病」という概念ができております。「老化すること自体が病気」という学説です。病である以上は、治療可能で医学界では HOT な話題です。この研究がどのように進むのか、一研究者として見守りたいです。	

石橋 昭子 准教授 博士(看護学) 看護師・臨床心理士	
専門分野	精神看護学、臨床心理学
担当科目	看護理論 看護倫理 看護学特論 看護学特論演習 特別研究
著書論文	精神科訪問看護師からみた統合失調症者に対するレスパイトケアの活用可能性に関する研究、上記分野の研究論文多数 (research map をご参照ください)
精神科レスパイトケアや薬物療法ケアのタスク・シフト／シェアに関する研究に取り組み、精神科看護の専門性の向上に貢献したいと考えています。	

健康医療学専攻「言語聴覚学コース」

吉村 貴子 教授 博士(学術) 言語聴覚士・公認心理士	
専門分野	失語・高次脳機能障害学、認知神経心理学
担当科目	健康科学特論 研究方法特論 健康政策特論 生体機能病態学特論 教育学特論Ⅱ 言語聴覚学特論A 言語聴覚学特論演習A 特別研究
著書論文	上記分野の研究論文多数（research mapをご参照ください）
失語症や認知症など、神経心理学的症状の発生メカニズムを明らかにし、より効果的なリハビリテーション治療法の確立を目指して研究に取り組んでいます。	

橋本 かほる 准教授 博士(保健学)・言語聴覚士	
専門分野	言語発達障害学、小児聴覚障害学
担当科目	教育学特論Ⅰ 言語聴覚学特論A 言語聴覚学特論演習A 特別研究
著書論文	上記分野の研究論文多数（research mapをご参照ください）
言語・コミュニケーション行動の発達に気付きや障害をもつ子どもとその保護者について言語聴覚士の専門性からのサポートについて研究しています。	

楯谷 智子 教授 博士(医学)・医師	
専門分野	耳鼻咽喉科学
担当科目	研究方法特論 生体機能病態学特論 言語聴覚学特論B 言語聴覚学特論C 言語聴覚学特論演習B 言語聴覚学特論演習C 特別研究
著書論文	上記分野の研究論文多数（research mapをご参照ください）
めまい平衡医学と音声言語医学の臨床に携わりつつ、そこから得た疑問をより優れた医療に活用できる確かな情報へと育てる研究を目指しています。	

森 尚彫 准教授 博士(医学)・言語聴覚士	
専門分野	聴覚障害学
担当科目	言語聴覚学特論B 言語聴覚学特論演習B 特別研究
著書論文	上記分野の研究論文多数（research mapをご参照ください）
難聴に対する聴覚補償機器に人工聴覚機器があります。その中の人工内耳の装用効果や評価方法、支援方法について研究しています。	

田中 秀央 教授 博士(医学)・医師	
専門分野	病理学、生理学、循環器学
担当科目	健康科学特論 生体機能病態学特論 研究方法特論 特別研究
著書論文	上記分野の研究論文多数（research mapをご参照ください）
長年、生体の機能や病気の理（ことわり）を解明するため従事してきた実験医学研究を基盤において、健康の理を解明することを目指しています。	

健康スポーツ学専攻

中川 昭 教授 博士(体育科学)	
専門分野	コーチング学
担当科目	健康スポーツ学総論 コーチング学特論 健康スポーツ学演習F 健康スポーツフィールド実習 特別研究
著書論文	球技のコーチング学（編著：大修館書店、2019年）、ラグビーのコーチング学（編著：大修館書店、2024年）
ゲームパフォーマンス分析を適用して球技のゲーム構造や戦術の有効性を解明する研究や、球技の選手の状況判断能力や戦術能力を高めるトレーニング法の研究を行っています。スポーツ競技の実践現場を科学的な眼で捉え、深く探究していく志のある学生を求めます。	

野村 照夫 教授 博士(学術)	
専門分野	バイオメカニクス、水泳方法学
担当科目	健康スポーツ学総論 バイオメカニクス特論 健康スポーツ学演習D 特別研究
著書論文	〔著書〕野村照夫（分担執筆）(2004) バイオメカニクス－身体運動の科学的基礎－第25章 競技力向上のバイオメカニクス（水泳）、杏林書院、pp.482-488. 〔論文〕T. Nomura and N. Kida (2023) Ingenuity of analysis using AI for platform diving. Biomechanics and Medicine in Swimming 14:363-368.
身体運動現象をバイオメカニクスの観点から、動きの幾何学的特性や力学的特性をとらえ、パフォーマンス向上に貢献している。また、運動中に身体にかかる負荷やストレスを評価し、スポーツ障害予防やリハビリテーション方法開発にも取り組んでいます。さらに、運動の客観と主観の関係についても探究しています。	

三宅 基子 教授 博士(保健学) 中級レクリエーションインストラクター	
専門分野	ヘルスプロモーション学、レジャー・レクリエーション学
担当科目	健康科学特論 健康スポーツ学総論 ヘルスプロモーション学特論 健康スポーツ学演習E 特別研究
著書論文	〔著書〕シニア健康プロジェクトⅡ～フレイル予防で支える元氣な人生（共著：YMCA） 〔論文〕「Effects of the exercise program using a pedometer on daily step counts and physical fitness among community dwelling elderly（日本健康体力栄養学会誌）」 「高齢者における散歩行動に影響を及ぼすソーシャル・キャピタル要因に関する研究（レジャー・レクリエーション研究）」等
心身ともに健康で充実したライフスタイルの実現において、レジャー・レクリエーションは、身体的・精神的健康の維持、社会的つながりの構築、生きがいや自己実現の促進など多面的な役割を担っています。幸福で健康な長寿社会の実現に向けたレジャー・レクリエーションとしての身体活動のあり方と、その推進策を検討しています。	

新里 直美 教授 博士(理学)	
専門分野	細胞生理学、体液・腎臓生理学、電気生理学
担当科目	健康科学特論 健康スポーツ学総論 生理学特論 健康スポーツ学演習C 特別研究
著書論文	〔著書〕「Mechanosensitive Ion Channels」(共著、Springer) 「Mechanically Gated Channels and their Regulation」(共著、Springer) 〔論文〕Therapeutic potential of multifunctional myricetin for treatment of type2 diabetes mellitus. Niisato N and Marunaka Y, Front Neur 2023.
「健康の維持と増進」に科学的基盤を与える生理学をアップデートするために最新の科学的な分析法・原理について習得し、基礎知識を蓄積します。その上で、「健康な生活」を多面的にプロデュースできる対応力や適応力、思考力の育成を目指します。	

井口 順太 教授 博士(人間健康科学) NATA公認アスレティックトレーナー SCSC, PES	
専門分野	アスレティックトレーニング学、トレーニング科学
担当科目	健康スポーツ学総論 アスレティックトレーニング学特論 健康スポーツ心理学演習G 健康スポーツフィールド実習 特別研究
著書論文	〔著書〕『図解スポーツ健康科学入門（第2版）』（金芳堂） 「第5章 2 テーピング」 〔論文〕Synergistic Dominance Induced by Hip Extension Exercise Alters Biomechanics and Muscular Activity During Sprinting and Suggests a Potential Link to Hamstring Strain. J. strength cond. res.37.9. 1770－1776(2023)
トレーニング、特にリカバリーとトレーニング負荷の関係性、さらにアスリートにおける睡眠について研究しています。またスポーツ外傷の発生メカニズムをバイオメカニクスの手法や疫学的手法など様々な手法を用いて解明に取り組んでいます。	

満石 寿 教授 博士(人間科学)	
専門分野	健康スポーツ心理学、精神生理心理学、ストレス科学
担当科目	健康科学特論 健康スポーツ学総論 健康スポーツ心理学特論 健康スポーツ学演習A 特別研究
著書論文	〔著書〕「運動と健康の心理学」（朝倉書店） 〔論文〕「The Validity of the Salivary Cortisol Analysis Method Using the Cube Reader in Japanese University Students」(Japanese Psychological Research), 「The Effect of Brief, Low-Intensity Stretching Gymnastics on Autonomic Nervous System Activity and Cognitive Function」(Health)
自らの興味や関心、問題意識に基づいて健康スポーツ心理学に関するテーマを設定し、文献を活用しながら科学的手法で課題に取り組めるよう指導します。また心理的・生理的データを分析し、実践現場で活用できる知識と技術の習得を目指します。	

石井 泰光 准教授 博士(体育学) SCSC	
専門分野	バイオメカニクス、体力測定評価学
担当科目	バイオメカニクス特論 健康スポーツ学演習D 特別研究
著書論文	〔著書〕フィットネスチェックハンドブック（共著、大修館書店、2020年） 〔論文〕体幹部の鉛直軸回りの回転運動から見た野球の投球とバットイングおよびゴルフのドライバーショットの類似性、体育学研究、55巻1号、63-79、2010 高校生と大学生の自転車競技選手における下肢と体幹の筋厚が実走および固定自転車でのスプリント能力に及ぼす影響、体力科学 65巻3号、327-335、2016
バイオメカニクスの研究手法を用いて、競技アスリートを中心に、パフォーマンス、動作・技術、体力の評価方法を研究しています。現在、動作および関節間の力学的特性や関節・部位間の総合評価方法の開発に取り組んでいます。	

新野 弘美 准教授 博士(医学) 健康運動指導士	
専門分野	ヘルスプロモーション学
担当科目	健康スポーツ学総論 生理学特論 ヘルスプロモーション観特論 健康スポーツ学演習C・E 健康スポーツフィールド実習Ⅱ 特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
著書論文	後期高齢者を対象としたスタティック・ストレッチングの介入による認知機能および抗動脈硬化への影響 大阪体育学研究 63巻 pp.11-25 [2025] 他
加齢・老化、運動処方と運動療法、健康教育、認知機能をキーワードに教育と研究を行っています。最近では「ストレッチング」に注目し、介入研究をしています。学部の学びを経て大学院での学びは、更に専攻領域の探究であり、問いとすることに対し、真摯に向き合い、仲間や教員と共に検証・追求しましょう。	

前田 奎 講師 博士(コーチング学)	
専門分野	コーチング学
担当科目	コーチング学特論 健康スポーツ学演習F 特別研究
著書論文	〔著書〕コーチング概論（みらい、2024） 〔論文〕Maeda, K., Kato, T., Mizushima, J., Kuroda, M., & Ohyama-Byun, K. (2024). Relationships between throwing distance and physical strength in female hammer throw: Estimating physical strength requirement corresponding to throwing distance. Journal of Human Sport and Exercise, 19 (3) , 710-721.
陸上競技における高いパフォーマンスの発揮のための要因について、実践現場に還元できる知見を提供することを目指して、様々な観点から研究に取り組んでいます。	

2026年度 大学院 入学試験ガイド

■ 募集研究科及び入学定員

研究科	専攻・コース	入学定員	備 考
経 済 学 研 究 科	経済学専攻（データサイエンスと行動経済学コース・税理士養成コース）	5名	※選考方法についての詳細は、 入学試験要項を参照してください。
経 営 学 研 究 科	経 営 管 理 専 攻（ ビ ジ ネ ス ス ク ー ル ）	20名	
人 間 文 化 研 究 科	人 間 文 化 専 攻	文化研究コース	
		社会情報コース	
		心理学コース	
		臨床心理学コース	
バイオ環境研究科	博 士 課 程 前 期	バイオ環境専攻	
	博 士 課 程 後 期	3名	
健康科学研究科 [*] （仮称）	健康医療学専攻（仮称）	看護学コース（仮称）	
		言語聴覚学コース（仮称）	
	健康スポーツ学専攻（仮称）	5名	
工 学 研 究 科	博 士 課 程 前 期	機械電気システム	
	博 士 課 程 後 期	工 学 専 攻	

※ 2026年4月開設予定（設置認可申請中）です。内容は予定であり、今後変更になる場合があります。

■ 出願期間・選考日・合格発表日

	インターネット出願期間	選考日	合格発表日
A 日 程	2025年9月12日（金）～9月29日（月） （出願書類の郵送は10月1日（水）消印有効）	10月11日（土）	10月21日（火）
B 日 程	2026年1月5日（月）～1月19日（月） （出願書類の郵送は1月21日（水）消印有効）	1月31日（土）	2月16日（月）
C 日 程	2026年2月9日（月）～2月23日（水・祝） （出願書類の郵送は2月25日（水）消印有効）	3月5日（木）	3月13日（金）

*学内推薦選考希望者は、入学センターまでお問い合わせください。

* C 日程は、経済学研究科（データサイエンスと行動経済学コース）および経営学研究科のみ実施します。

■ 2026年度 学費等 納付金額^{（予定）}

2026年度の入学者に適用する学費等の額は、2025年7月頃に決定する予定です。以下は、2025年度の入学者に適用する学費等を参考として掲載しています。

経営学研究科・経済学研究科・バイオ環境研究科

研究科別 費 目		経営学研究科		経済学研究科		バイオ環境研究科	
		入学手続時納付 （春学期分）	10月納付 （秋学期分）	入学手続時納付 （春学期分）	10月納付 （秋学期分）	入学手続時納付 （春学期分）	10月納付 （秋学期分）
入 学 金		200,000円	——	200,000円	——	200,000円	——
学 費	授 業 料	750,000円	750,000円	272,500円	272,500円	315,000円	315,000円
	施設設備費	——	——	96,000円	96,000円	75,000円	75,000円
	実験実習費	——	——	——	——	85,000円	85,000円
合 計		950,000円	750,000円	568,500円	368,500円	675,000円	475,000円

人間文化研究科

コース別 費 目		文化研究コース・社会情報コース		心理学コース		臨床心理学コース	
		入学手続時納付 （春学期分）	10月納付 （秋学期分）	入学手続時納付 （春学期分）	10月納付 （秋学期分）	入学手続時納付 （春学期分）	10月納付 （秋学期分）
入 学 金		200,000円	——	200,000円	——	200,000円	——
学 費	授 業 料	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円
	施設設備費	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円
	実験実習費	——	——	10,000円	10,000円	40,000円	40,000円
小 計		568,500円	368,500円	578,500円	378,500円	608,500円	408,500円
委託徴収金 学 会 費		3,000円	——	3,000円	——	3,000円	——
合 計		571,500円	368,500円	581,500円	378,500円	611,500円	408,500円

工学研究科・健康科学研究科^{*}

研究科別 費 目		工学研究科		健康科学研究科 [*]	
		入学手続時納付 （春学期分）	10月納付 （秋学期分）	入学手続時納付 （春学期分）	10月納付 （秋学期分）
入 学 金		200,000円	——	200,000円	——
学 費	授 業 料	325,000円	325,000円	300,000円	300,000円
	施設設備費	75,000円	75,000円	75,000円	75,000円
	実験実習費	100,000円	100,000円	——	——
合 計		700,000円	500,000円	575,000円	375,000円

※ 2026年4月開設予定（設置認可申請中）
です。内容は予定であり、今後変更になる場合
があります。

* 最終学歴が京都学園大学・京都先端科学大
学（大学院含む）の方は、入学金 100,000
円（全研究科共通）、施設設備費半期分
64,500円（バイオ環境研究科・工学研究科
除く）となります。

京都先端科学大学大学院奨学金

本学では、意欲ある優秀な研究者を応援するため、返還義務の無い給付型奨学金を用意しています。

種 別	研 究 科	課 程	金 額	募集時期	採用期間
スーパートップ	全研究科	博士課程前期	入学金、各学期学費の100%及び修学支援奨励金として学期毎に600,000円	入学前	2年間
	バイオ環境研究科 工学研究科	博士課程後期	入学金、各学期学費の100%及び修学支援奨励金として学期毎に600,000円	入学前	3年間
成績優秀 第1種	全研究科	博士課程前期	入学金、各学期学費の100%	入学前	2年間
	バイオ環境研究科 工学研究科	博士課程後期	入学金、各学期学費の100%	入学前	3年間
成績優秀 第2種	全研究科	博士課程前期	入学金、各学期学費の50%	入学前	2年間
	バイオ環境研究科	博士課程後期	入学金、各学期学費の50%	入学前	3年間
成績優秀 第3種	工学研究科	博士課程前期	入学金、各学期学費の30%	入学前	2年間

※企業から学費の支給がある企業派遣の方は、奨学金対象外です

※学費とは授業料、施設設備費、実験実習費を指します

※奨学金の継続には学期ごとの成績審査があります

大学院長期履修学生制度のお知らせ

長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年間）では大学院の教育課程の修了が困難な者に限り、計画的に教育課程を履修し、修了する制度です。

1. 適用研究科 全ての研究科に適用されます。

2. 申請資格

①職業を有している者

②育児、介護等の事情により、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者

③その他やむを得ない事情（身体の障がい、疾病等）を有し、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者

※外国人留学生（在留資格「留学」を有する者）は申請できません。

3. 履修期間

標準修業年数2年を含み3年もしくは4年（年単位）

4. 申請手続

2026年3月1日までに各研究科窓口までお問合せください。

経済学研究科	075-406-9230
経営学研究科	075-406-9123
人間文化研究科	075-406-9118
バイオ環境研究科	0771-29-3422
工学研究科	075-496-6217

5. 授業料の取扱い

履修計画期間における授業料等の額は、標準修業年限分の学費を履修計画期間で除した額となります。

6. その他

標準修業年限を超える年次において、別途費用を徴収することがあります。



KYOTO UNIVERSITY of ADVANCED SCIENCE

京都先端科学大学 大学院

<https://www.kuas.ac.jp/>

【入試に関するお問い合わせ】入学センター

TEL/075-406-9270 E-Mail/nyushi@kuas.ac.jp



京都太秦キャンパス

〒615-8577 京都市右京区山ノ内五反田町18 TEL/075-406-7000(代表)

[経済経営学部] 経済学科/経営学科 [人文学部] 心理学科/歴史文化学科

[健康医療学部] 看護学科/言語聴覚学科 [工学部] 機械電気システム工学科

[大学院] 経済学研究科(修士課程)/経営学研究科(修士課程)

人間文化研究科(修士課程)/健康科学研究科 健康医療学専攻(修士課程)*

工学研究科(博士課程前期・後期)



京都亀岡キャンパス

〒621-8555 京都府亀岡市曾我部町南条大谷1-1 TEL/0771-22-2001(代表)

[バイオ環境学部] 生物環境科学科/応用生命科学科

[健康医療学部] 健康スポーツ学科

[大学院] バイオ環境研究科(博士課程前期・後期)

健康科学研究科 健康スポーツ学専攻(修士課程)*

※2026年4月開設予定(設置認可申請中) 内容は予定であり、今後変更になる場合があります。